

GA-8I925X-G

Intel® Pentium® 4 LGA775プロセッサマザーボード

ユーザーズマニュアル

Rev. 2002

12MJ-8I925XG-2002

Declaration of Conformity

N.V. Manufacturer/Importer
(full address)

G.B.T. Technology Trading GmbH
Ausseilager Weg 41, Ifc 20337 Hamburg, Germany

(description of the apparatus, system, or installation to which it refers)

Motherboard

GA-8925X-G

(reference to the specification under which conformity is declared)
in accordance with 89/338 EEC-EMC Directive
Is in conformity with

DECLARATION OF CONFORMITY	
Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)	
	
Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)	Address: 17358 Railroad Street City of Industry, CA 91748
Phone/Fax No: (818) 854-9338/ (818) 854-9339	
hereby declares that the product	
Product Name: Motherboard	Model Number: GA-8925X-G
Conforms to the following specifications:	
FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109	
(a) Class B Digital Device	
Supplementary Information:	
This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.	
Representative Person's Name: ERIC LU	
Signature: <u>Eric Lu</u>	
Date: Jul. 2, 2004	



(EC conformity marking)

This manufacturer also declares the conformity of above mentioned product
with the below required safety standards in accordance with LVD and EEC

Safety requirements for mains operated
electronic and related apparatus for
household and similar general use

Safety of household and similar
electrical appliances

EN 60665

EN 60895

EN 60951-1

Safety for information technology equipment
including electrical business equipment

General and Safety requirements for
uninterruptible power systems (UPS)

Manufacturer/Importer

Signature: Timmy Huang

(Stamp)

Date: Jul. 2, 2004

Name : Timmy Huang

著作権

© 2004 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 版權所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの会社に対して法的に登録されたものです。

通知

本製品に提供される書面による内容はGigabyteの所有物です。

本マニュアルのいかなる部分も、Gigabyteの書面による事前の許可なしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳または伝送を行うことができません。仕様と機能は、将来予告なしに変更することがあります。

製品マニュアル分類

本製品の使用を支援するために、Gigabyteは次のようにユーザーマニュアルを分類しています。

- クイックインストールについては、製品に付属する「ハードウェア取り付けガイド」を参照してください。
- 詳細な製品情報と仕様については、「製品のユーザーマニュアル」をよくお読みください。
- Gigabyteの独自の機能に関する詳細については、GigabyteのWebサイトの「技術ガイド」にアクセスしてください.pdf形式で情報をダウンロードできます。

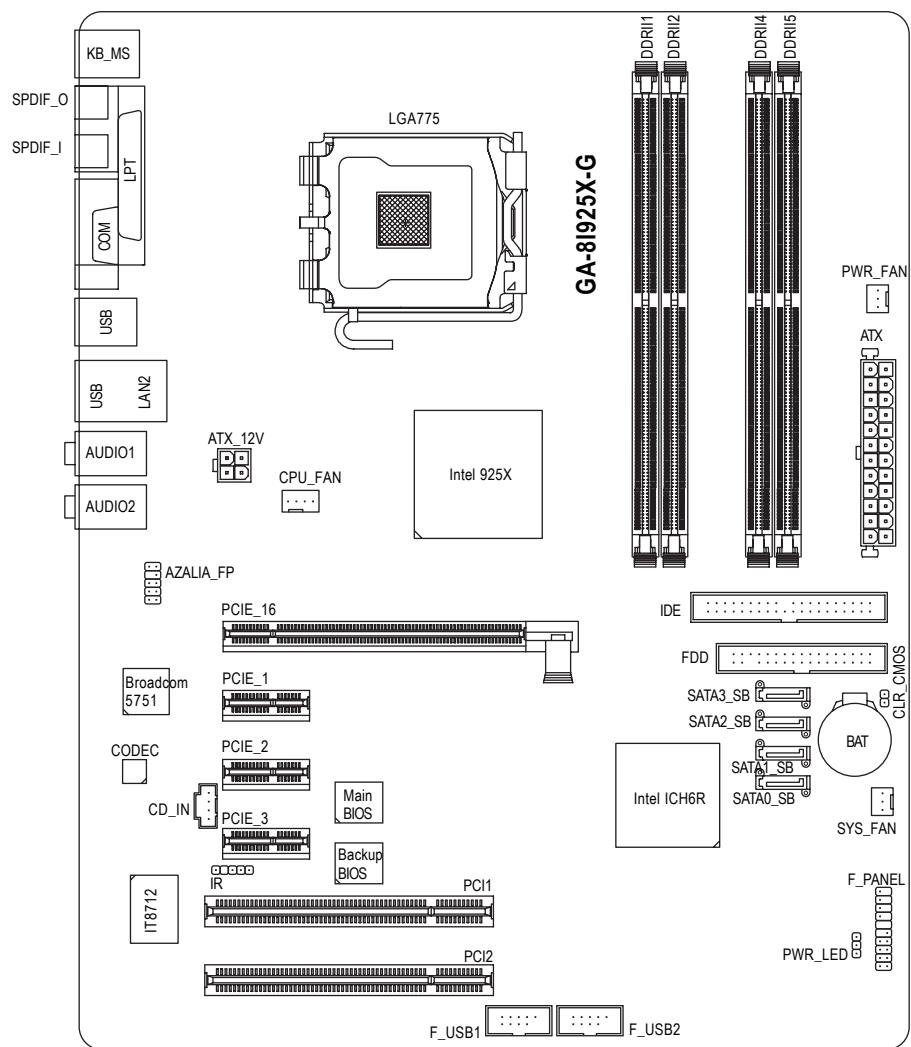
詳細な製品情報については、GigabyteのWebサイト：www.gigabyte.com.twにアクセスしてください。

目次

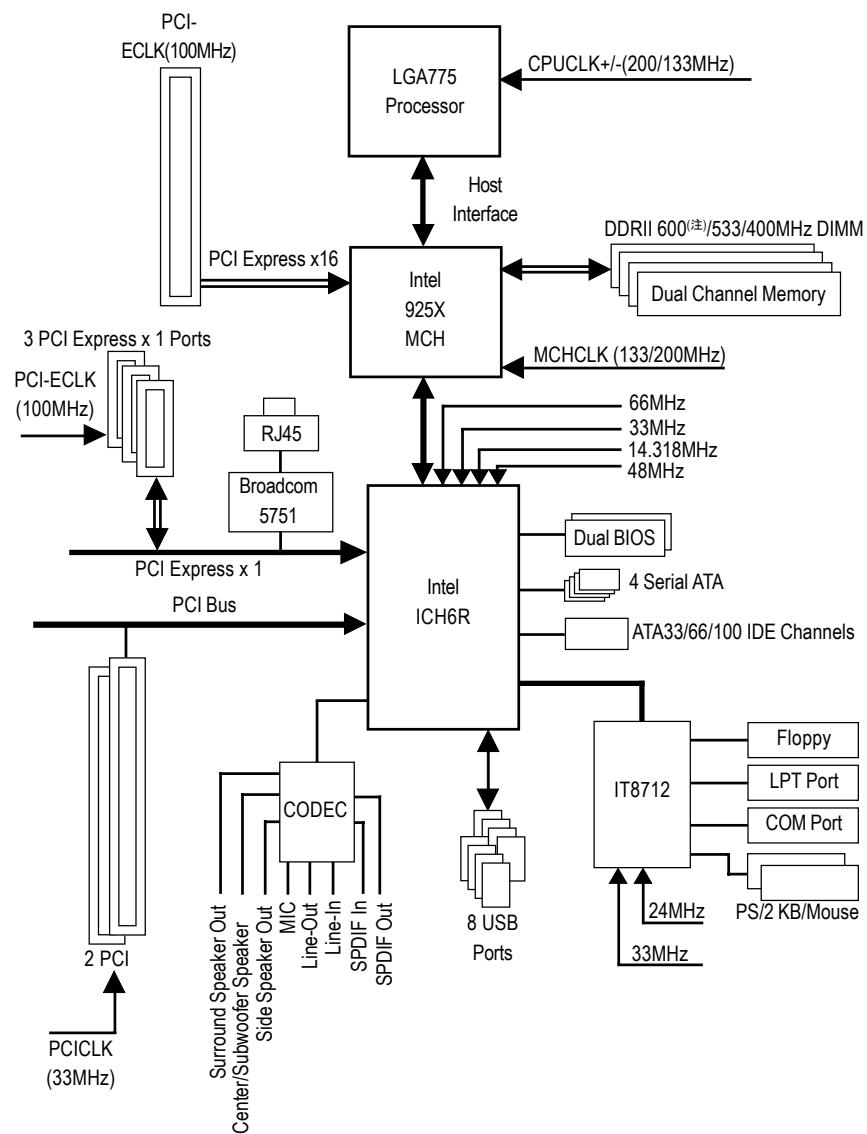
GA-8I925X-Gマザーボードのレイアウト	6
ブロック図	7
第1章 ハードウェアの取り付け	9
1-1 取り付ける前に考慮すべき事柄	9
1-2 機能のまとめ	10
1-3 CPUとヒートシンクの取り付け	12
1-3-1 CPUの取り付け	12
1-3-2 ヒートシンクの取り付け	13
1-4 メモリの取り付け	14
1-5 拡張カードの取り付け	16
1-6 I/O背面パネルの概要	17
1-7 コネクタの概要	18
第2章 BIOSセットアップ	27
メインメニュー (例: BIOS Ver.: F1)	28
2-1 Standard CMOS Features	30
2-2 Advanced BIOS Features	32
2-3 Integrated Peripherals	34
2-4 Power Management Setup	37
2-5 PnP/PCI Configurations	39
2-6 PC Health Status	40
2-7 MB Intelligent Tweaker (M.I.T.)	42
2-8 Select Language	44
2-9 Load Fail-Safe Defaults	44
2-10 Load Optimized Defaults	45
2-11 Set Supervisor/User Password	45
2-12 Save & Exit Setup	46
2-13 Exit Without Saving	46

第3章 ドライバのインストール	47
3-1 Install Chipset Drivers	47
3-2 Software Applications	48
3-3 Driver CD Information	48
3-4 Hardware Information	49
3-5 Contact Us	49
第4章 付録	51
4-1 ユニークなソフトウェアユーティリティ	51
4-1-1 Xpress Recoveryの概要	52
4-1-2 フラッシュBIOS方式の概要	55
4-1-3 シリアルATA BIOS設定ユーティリティの概要	66
4-1-4 2-/4-/6-/8チャネルオーディオ機能の概要	73
4-2 トラブルシューティング	78

GA-8I925X-Gマザーボードのレイアウト



ブロック図



(注) マザーボードで DDRII 600 メモリモジュールを使用するには、800MHz FSB プロセッサと BIOS にオーバークロックを設定する必要があります。

第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付ける前に考慮すべき事柄

コンピュータを準備する

マザーボードには、静電放電(ESD)の結果損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。従って、取り付ける前に、以下の指示に従ってください。

1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードからプラグを抜いてください。
2. マザーボードを処理しているとき、金属リード線やコネクタには触れないようにしてください。
3. 電子コンポーネント(CPU、RAM)を処理しているとき、静電放電(ESD)カフを着用することをお勧めします。
4. 電子コンポーネントを取り付ける前に、これらのアイテムを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
5. マザーボードから電源コネクタを抜く前に、電源装置のスイッチがオフになっていることを確認してください。

取り付けに関する通知

1. 取り付ける前に、マザーボードのシリアルステッカーを取り外さないでください。これらのシリアルステッカーは保証の確認に必要です。
2. マザーボードまたはハードウェアを取り付ける前に、マニュアルに付属する情報をよくお読みください。
3. 製品を使用する前に、ケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
4. マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
5. マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
6. 平らでない面の上にコンピュータシステムを設置しないでください。
7. 取り付けプロセスの間にコンピュータの電源をオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ユーザーが負傷する危険があります。
8. 取り付けステップについて不明確な場合、または製品の使用に関して問題がある場合、専門のコンピュータ技術者にお問い合わせください。

保証の対象外となる例

1. 自然災害、偶発事故または人為による損傷。
2. ユーザーマニュアルで推奨された条件に違反した結果の損傷。
3. 不適切な取り付けによる損傷。
4. 保証されていないコンポーネントの仕様による損傷。
5. 許可されたパラメータを超えて使用したことによる損傷。
6. 非公認のGigabyte製品とみなされる製品。

1-2 機能のまとめ

CPU	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 最新のIntel® Pentium® 4 LGA775 CPUをサポート ◆ 800/533MHz FSBをサポート ◆ L2キャッシュはCPUで異なります
チップセット	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ノースブリッジ: Intel® 925X Expressチップセット ◆ サウスブリッジ: Intel® ICH6R
メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 4つのDDR II DIMMメモリスロット (最大4GBのメモリをサポート)^(注1) ◆ デュアルチャネル DDR II 600^(注2)/ 533/ 400 バッファなし DIMM をサポート ◆ 1.8V DDR II DIMMをサポート
スロット	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 1つのPCI Express x 16スロット ◆ 3つのPCI Express x 1スロット ◆ 2つのPCIスロット
IDE接続	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 1つのIDE接続(UDMA 33/ATA 66/ATA 100)により、2つのIDEデバイスの接続が可能になります
FDD接続	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 1つのFDD接続により、2つのFDDデバイスの接続が可能になります
オンボードSATA	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ICH6R (SATA0_SB、SATA1_SB、SATA2_SB、SATA3_SB) から4つのシリアルATAポート
周辺機器	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 標準/EPP/ECPモードをサポートする1つのパラレルポート ◆ 1つのシリアルポート(COMA) ◆ 8つのUSB 2.0/1.1ポート(ケーブルを通して背面x4、正面x4) ◆ 1つのオーディオコネクタ ◆ 1つのIRコネクタ ◆ 1つのPS/2キーボードポート ◆ 1つのPS/2マウスポート
オンボードLAN	<ul style="list-style-type: none"> ◆ オンボードBroadcom 5751チップ(10/100/1000 Mbit) ◆ 1つのRJ 45ポート
オンボードオーディオ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ALC880 CODEC ◆ Jack Sensing機能をサポート ◆ 2/4/6/8チャネルオーディオをサポート ◆ ライン入力、ライン出力(前面スピーカー出力)、MIC、サラウンドスピーカー出力(背面スピーカー出力)、センター/サブウーファスピーカー出力、側面スピーカー出力接続をサポート ◆ SPDIF入出力接続 ◆ CD入力接続

(注1) 標準PCアーキテクチャにより、ある量のメモリはシステム使用向けに予約され、従って実際のメモリサイズは表示された量より少なくなります。

例えば、4GBのメモリサイズはシステム起動中に3.xxGBメモリとして表示されます。

(注2) マザーボードで DDRII 600 メモリモジュールを使用するには、800MHz FSB プロセッサとBIOSにオーバークロックを設定する必要があります。



I/O コントロール	♦ IT8712
ハードウェア	♦ システム電圧の検出
モニタ	♦ CPU 温度の検出 ♦ CPU/ システム/ 電源ファン速度の検出 ♦ CPU 警告温度 ♦ CPU/ システム/ 電源ファンエラー警告 ♦ CPU スマートファンコントロール
オンボード	♦ オンボード ICH6R チップセット SATA RAID (SATA0_SB, SATA1_SB, SATA2_SB, SATA3_SB) - データストライピング (RAID 0) またはミラーリング (RAID 1) 機能をサポート - JBOD 機能をサポート - 最高 150 MB のデータ転送速度をサポート - ホットプラギングをサポート - 最高 4 つの SATA 接続をサポート - Win 2000/XP オペレーティングシステムをサポート
BIOS	♦ ライセンスを受けた AWARD BIOS の使用 ♦ デュアル BIOS/Q-Flash/ 多言語 BIOS のサポート
追加機能	♦ @BIOS のサポート ♦ EasyTune のサポート
オーバークロッキング	♦ BIOS (CPU/ DDR II/ PCI-E) を通した過電圧
フォームファクタ	♦ ATX フォームファクタ、30.5cm x 24.4cm

1-3 CPUとヒートシンクの取り付け



CPUを取り付ける前に、次の条件に従ってください:

1. マザーボードがCPUをサポートしていることを確認してください。
2. CPUのギザギザのある1つの隅に注意してください。間違った方向にCPUを取り付けると、CPUは正しく挿入されません。この場合、CPUの挿入方向を変更してください。
3. CPUとヒートシンクの間にヒートシンク用接着剤を均等に塗ってください。
4. システムを使用する前にヒートシンクがCPUに取り付けてあるか確認してください。取り付けられていないと、過熱してCPUが完全に損傷することがあります。
5. プロセッサの仕様に従って、CPUのホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えてシステムバスの周波数を設定することはお勧めしません。周辺機器の要求される標準を満たしていません。正しい仕様を超えて周波数を設定したい場合、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従って行ってください。



HT機能性の要求内容 :

コンピュータシステム用にハイパスレッディングテクノロジを有効にするには、次のプラットフォームコンポーネントのすべてが必要となります:

- CPU: HTテクノロジを搭載したIntel® Pentium 4プロセッサ
- チップセット: HTテクノロジをサポートするIntel®チップセット
- BIOS: HTテクノロジをサポートし有効にしているBIOS
- OS: HTテクノロジ用に最適化されたオペレーティングシステム

1-3-1 CPUの取り付け

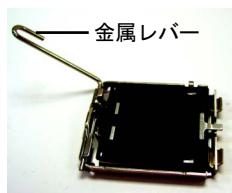


図1
CPUソケットに配置された金属レバーを垂直の位置にそっと持ち上げます。

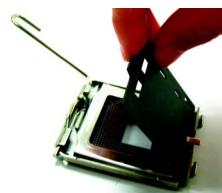


図2
CPUソケットのプラスチックカバーを取り外します。

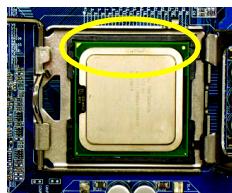


図3
CPUソケットの端にある金色の小さな三角形に注意してください。三角形にCPUのギザギザのある隅を合わせ、CPUをそっと正しい位置に差し込みます。(親指と人差し指でCPUをしっかりとつかみ、上下に動かしてソケットに慎重に取り付けてください。ひねったりまげたりすると、取り付けている間にCPUが損傷する原因となります)。



図4
CPUが正しく取り付けられたら、プラスチックカバーを元に戻し、金属レバーを元の位置に押し込んでください。

1-3-2 ヒートシンクの取り付け



図1

取り付けたCPUの表面にヒートシンク用接着剤を均一に塗ってください。

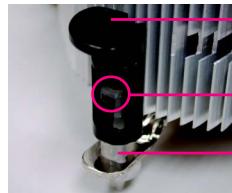


図2

(矢印の方向に沿ってプッシュピンを回すと、ヒートシンクが外され、逆の方向に回すと取り付けられます)。

オスのプッシュピンの矢印記号の方向は、取り付け前には内側を向いていないことにご注意ください。(この指示は、Intelボックス入りファン専用です)

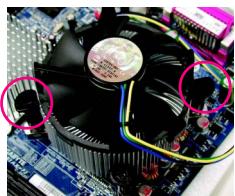


図3

CPUの上にヒートシンクを取り付け、プッシュピンがマザーボードのピンホールに挿っていることを確認してください。ブ種ピンは、対角方向に押し下げてください。

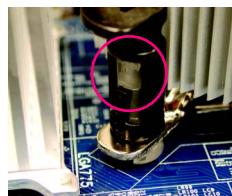


図4

オスとメスのプッシュピンがしっかりと結合していることを確認してください。(詳細な取付方法説明書についてはユーザーマニュアルのヒートシンクの取り付け項を参照してください)。

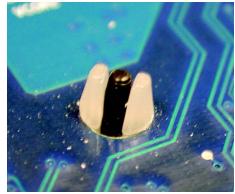


図5

取り付け後、マザーボードの背面を確認してください。プッシュピンが図のように挿入されていれば、取り付けは完了です。



図6

最後に、ヒートシンクの電源コネクタをマザーボードのCPUファンヘッダの電源コネクタに取り付けてください。



ヒートシンクは、ヒートシンク用接着剤の硬化によりCPUにしっかりとくっついてしまうことがあります。そのような事態を防ぐために、ヒートシンク用接着剤の代わりに感熱テープを使用して熱を放散するか、細心の注意を払ってヒートシンクを取り外すことをお勧めします。

1-4 メモリの取り付け



メモリモジュールを取り付ける前に、次の条件に従ってください。

1. 使用するメモリがマザーボードでサポートされていることを確認してください。同じ容量、仕様、ブランドのメモリを使用することをお勧めします。
2. メモリモジュールを取り付けたり取り外したりする前に、ハードウェアの損傷を防ぐためにコンピュータの電源がオフになっていることを確認してください。
3. メモリモジュールは、絶対に確実な挿入設計が施されています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。モジュールを挿入できない場合、方向を変えてください。

マザーボードはDDR IIメモリモジュールをサポートしているため、BIOSはメモリ容量と仕様を自動的に検出します。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できないように設計されています。使用されるメモリ容量は、スロットごとに異なっていてもかまいません。

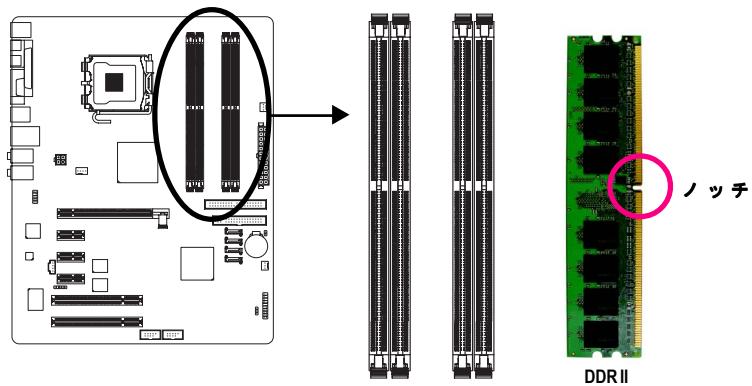


図1

DIMMソケットにはノッチがついているため、DIMMメモリモジュールは一方向にしかフィットしません。DIMMメモリモジュールをDIMMソケットに垂直に挿入してください。それから、ソケットを押し下げます。

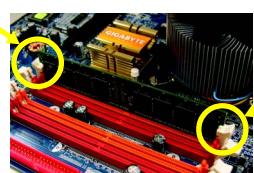


図2

DIMMソケットの両端のプラスチッククリップを閉じ、DIMMモジュールをロックします。DIMMモジュールを取り外すには、取り付けステップを逆に行ってください。



デュアルチャネルDDR II

GA-8I925X-G は、デュアルチャネルテクノロジをサポートします。デュアルチャネルテクノロジを操作すると、メモリバスのバンド幅は 8.5GB/s (DDR400) まで倍増します。

GA-8I925X-G には4つのDIMM ソケットが組み込まれており、各チャネルには次のように2つのDIMMソケットがあります:

- » チャネルA: DDR II 1、DDR II 2
- » チャネルB: DDR II 4、DDR II 5

デュアルチャネルテクノロジを操作した場合、Intelチップセット仕様の制限により、次の説明に注意してください。

1. 1つまたは3つのDDR IIメモリモジュールが取り付けられると、デュアルチャネルメモリを使用することはできません。
2. (同じ記憶容量の)2つのDDR IIメモリモジュールが取り付けられている場合、デュアルチャネルメモリを使用するためには、1つのモジュールをチャネルAスロットに、もう1つをチャネルBに追加する必要があります。両方のDDR IIメモリモジュールが同じチャネルに取り付けられている場合、デュアルチャネルメモリは機能できません。
3. 4つのDDR IIメモリモジュールが取り付けられている場合、デュアルチャネルメモリを使用し、BIOS がすべてのDDR IIメモリモジュールを検出できるようにするために、同じ記憶容量のメモリを使用してください。

デュアルチャネルテクノロジが機能するには、2つのDDR IIメモリモジュールを同じ色のDIMMに差し込むことを強くお勧めします。

次の表は、デュアルチャネルテクノロジの組み合わせを示しています。(DS:両面、SS:片面)

	DDR II 1	DDR II 2	DDR II 4	DDR II 5
メモリモジュール (x2)	DS/SS	X	DS/SS	X
	X	DS/SS	X	DS/SS
メモリモジュール (x4)	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

1-5 拡張カードの取り付け

以下に説明するステップに従って、拡張カードを取り付けることができます:

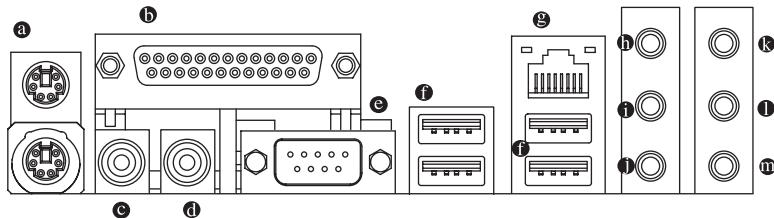
1. 拡張カードをコンピュータに取り付ける前に、関連するカードの操作マニュアルをお読みください。
2. コンピュータのシャーシカバー、ネジ、スロットブラケットをコンピュータから取り外します。
3. 拡張カードをマザーボードの拡張スロットにしっかりと押し込みます。
4. カードの金属接触部がスロットにしっかりと取り付けられていることを確認してください。
5. ネジを元に戻して、拡張カードのスロットブラケットに固定します。
6. コンピュータのシャーシカバーを元に戻します。
7. コンピュータの電源をオンにし、必要に応じて、BIOS から拡張カードの BIOS ユーティリティをセットアップします。
8. オペレーティングシステムから関連するドライバをインストールします。

PCI Express x 16拡張カードを取り付ける:



VGAカードの取り付けや取り外しを行うとき、PCI Express x 16 スロットの端にある小さな白い取り出し可能バーを慎重に引っ張ってください。VGAカードをオンボード PCI Express x 16 スロットに合わせ、スロットにしっかりと押し下げます。VGAカードが小さな白い取り出し可能バーによりロックされていることを確認してください。

1-6 I/O 背面パネルの概要



① PS/2キーボードとPS/2マウスコネクタ

PS/2 キーボードとマウスを取り付けるには、マウスを上のポート(緑)に、キーボードを下のポート(紫)に差し込みます。

② パラレルポート

パラレルポートにより、プリンタ、スキャナ、その他の周辺装置を接続できます。

③ SPDIF_I (SPDIF出力)

SPDIF 出力はデジタルオーディオを外部スピーカーに、または圧縮済み AC3 データを外部 Dolby デジタルデコーダに提供することができます。

④ SPDIF_O (SPDIF入力)

お使いの装置がデジタル出力機能を搭載しているときのみ、SPDIF 入力機能をご使用ください。

⑤ COM A (シリアルポート)

シリアルベースのマウスまたはデータ処理デバイスに接続します。

⑥ USBポート

デバイスを USB コネクタに接続する前に、USB キーボード、マウス、スキャナ、ZIP、スピーカーなどのデバイスに標準の USB インターフェイスが搭載されていることを確認してください。また、OS が USB コントローラをサポートしていることも確認してください。OS が USB コントローラをサポートしていない場合、OS ベンダーに連絡してパッチまたはドライバのアップグレードを入手してください。詳細については、OS またはデバイスベンダーにお問い合わせください。

⑦ LANポート

付属のインターネット接続は Gigabit イーサネット (PCI Express Gigabit) で、10/100/1000Mbps のデータ転送速度を提供しています。

⑧ ライン入力

CD-ROM、ウォークマンなどのデバイスは、ライン入力ジャックに接続できます。

⑨ ライン出力 (正面スピーカー出力)

ステレオスピーカー、イヤホンまたは正面サラウンドスピーカーをこのコネクタに接続します。

⑩ MIC入力

マイクを MIC 入力ジャックに接続できます。

⑪ 背面スピーカー出力

背面サラウンドスピーカーをこのコネクタに接続します。

⑫ 中央/サラウンドスピーカー出力

センター/サブウーファスピーカーをこのコネクタに接続します。

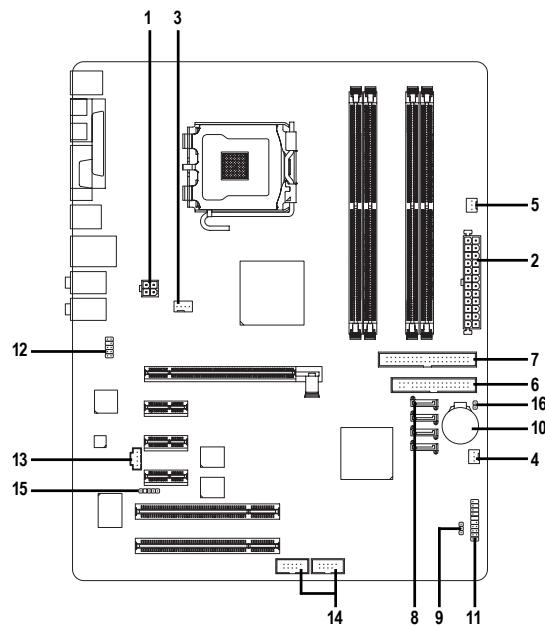
⑩ 側面スピーカー出力

側面サラウンドスピーカーをこのコネクタに接続します。



オーディオソフトウェアを使用して、2-/4-/6-/8チャネルオーディオ機能を構成することができます。

1-7 コネクタの概要



- | | |
|--|---------------------|
| 1) ATX_12V | 9) PWR_LED |
| 2) ATX (電源コネクタ) | 10) BAT |
| 3) CPU_FAN | 11) F_PANEL |
| 4) SYS_FAN | 12) AZALIA_FP |
| 5) PWR_FAN | 13) CD_IN |
| 6) FDD | 14) F_USB1 / F_USB2 |
| 7) IDE | 15) IR |
| 8) SATA0_SB/SATA1_SB/SATA2_SB/SATA3_SB | 16) CLR_CMOS |



1/2) ATX_12V/ATX (電源コネクタ)

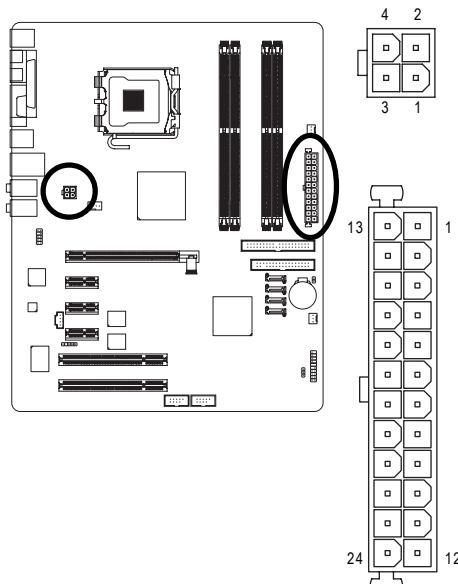
電源コネクタを使用すると、マザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、すべてのコンポーネントとデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタをマザーボードの正しい場所に合わせ、しっかりと接続してください。

ATX_12V電源コネクタは、主にCPUに電力を供給します。ATX_12V電源コネクタが接続されていない場合、システムは起動しません。

注意!

システムの電圧要求を処理できる電源装置をご使用ください。高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします(300W以上)。要求される電力を供給できない電源装置をご使用になる場合、システムが不安定になったり、システムが起動できない場合があります。

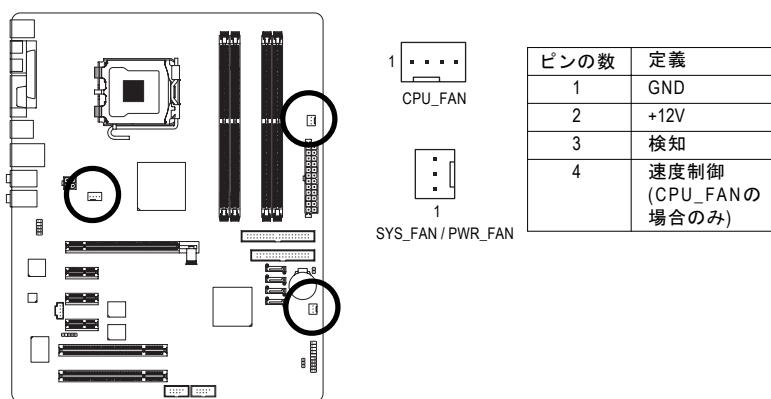
24ピンのATX電源装置に差し込む前に、マザーボードのステッカーを取り外してください。24ピン以外の場合は、このステッカーを取り外さないでください。



ピンの数	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V

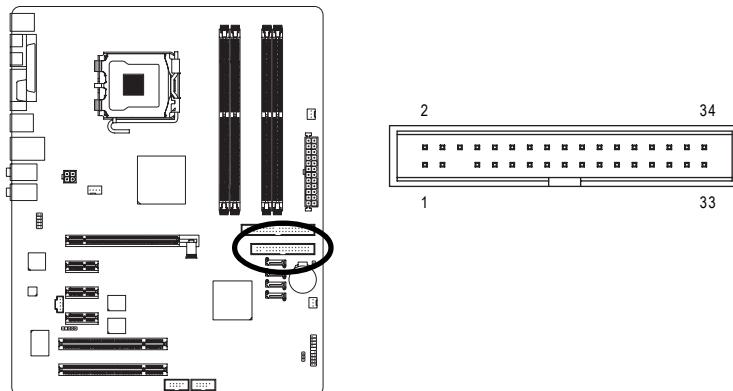
ピンの数	定義
1	3.3V
2	3.3V
3	GND
4	VCC
5	GND
6	VCC
7	GND
8	電源装置
9	5V SB (スタンバイ+5V)
10	+12V
11	+12V
12	3.3V(24ピンATXの場合のみ)
13	3.3V
14	-12V
15	GND
16	PS_ON (ソフトオン/オフ)
17	GND
18	GND
19	GND
20	-5V
21	VCC
22	VCC
23	VCC
24	GND

- 3/4/5) **CPU_FAN / SYS_FAN / PWR_FAN (クーラーファン電源コネクタ)**
 これらの電源コネクタは3ピン/4ピン (CPU_FANの場合のみ) 電源コネクタを通して+12Vの電圧を提供し、絶対安全な接続設計を保有します。
 ほとんどのクーラーは、色分けされた電源コネクタワイヤで設計されています。赤い電源コネクタワイヤはプラスの接続を示し、+12V電圧を要求します。黒いコネクタワイヤはアース線(GND)です
 システムが過熱して故障しないように、クーラーに電源を接続することを忘れないでください。
注意!
 CPUが過熱して故障しないように、CPUファンに電源を接続することを忘れないでください。



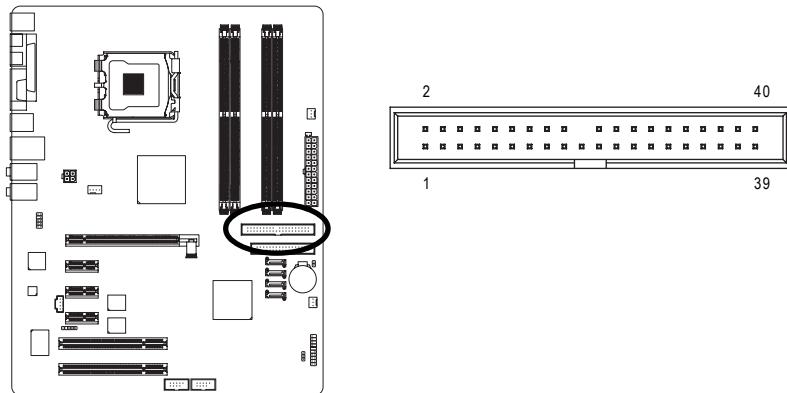
6) FDD (FDDコネクタ)

FDDコネクタはFDDケーブルを接続し、ケーブルの他の端はFDDドライブに接続するために使用されます。サポートされるFDDドライブの種類は、次の通りです。360KB、720KB、1.2MB、1.44MB、2.88MB。
 赤い電源コネクタワイヤをPIN1位置に接続してください。



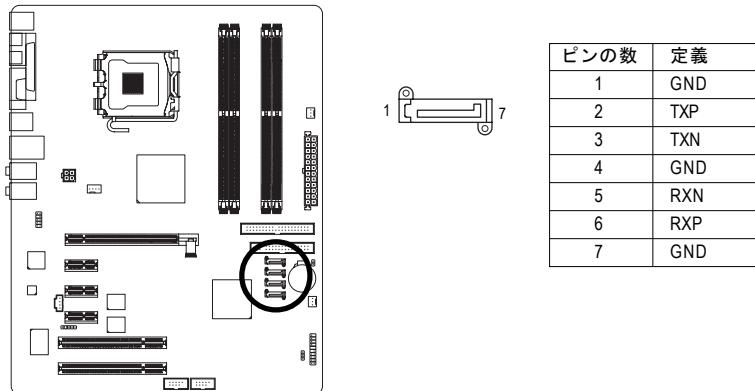
7) IDE (IDEコネクタ)

IDEデバイスは、IDEコネクタを通してコンピュータに接続します。1つのIDEコネクタは1本のIDEケーブルに接続し、1本のIDEケーブルは2つのIDEデバイス（ハードドライブまたは光ドライブ）に接続できます。2つのIDEデバイスを接続したい場合、IDEデバイスのジャンパをマスターとして、もう一方のジャンパをスレーブとして設定してください（設定の情報については、IDEデバイスに付属する取扱説明書を参照してください）。



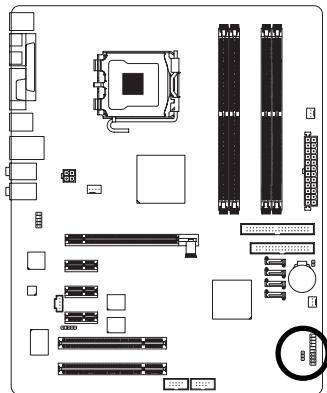
8) SATA0_SB / SATA1_SB / SATA2_SB / SATA3_SB (シリアルATAコネクタ)

シリアルATAは、150MB/秒の転送速度を提供できます。正しく作動するためには、シリアルATAのBIOS設定を参照し、適切なドライバをインストールしてください。



9) PWR_LED

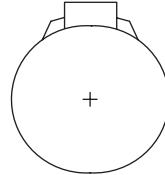
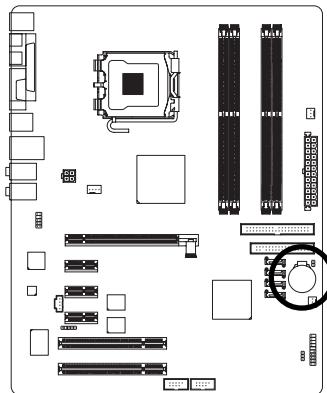
PWR_LED はシステム電源インジケータに接続して、システムの電源がオンまたはオフになっていることを示します。システムがサスPENDモードに入っているとき、点滅します。



ピンの数	定義
1	MPD+
2	MPD-
3	MPD-

1

10) BAT (バッテリ)



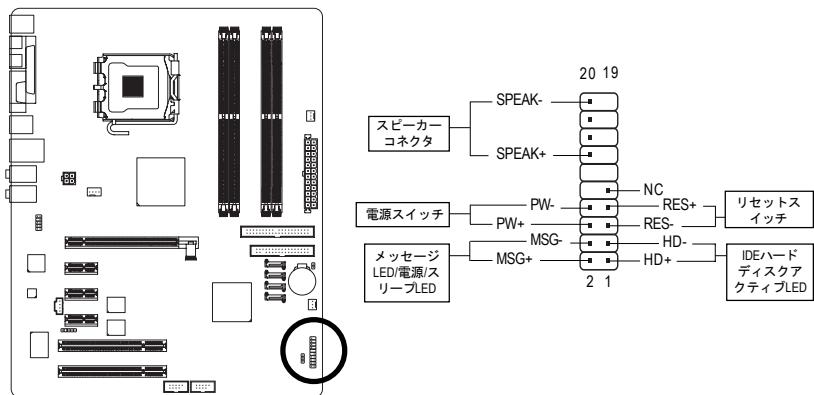
- ❖ バッテリを間違って入れ替えると、爆発の危険があります。
- ❖ 同じタイプのもの、またはメーカーが推奨するタイプと同等のものとのみ交換してください。
- ❖ メーカーの指示に従って、使用済みバッテリを処分してください。

CMOS を消去するには ...

1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリを取り外し、30秒待ちます。
3. バッテリを再びセットします。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。

11) F_PANEL (正面パネルジャンパ)

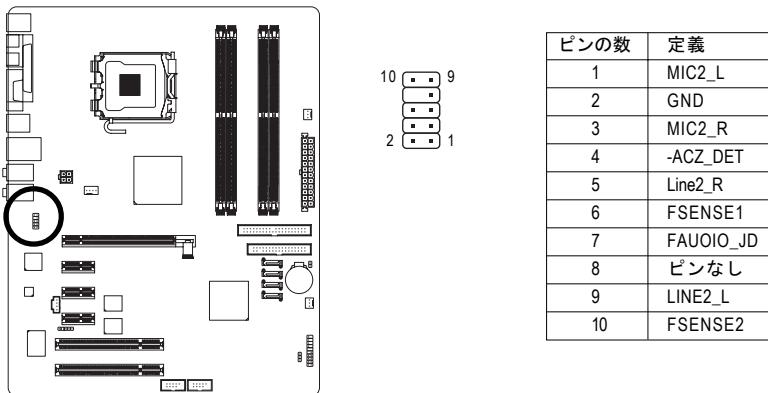
シャーシ正面パネルの電源LED、PCスピーカー、リセットスイッチ、電源スイッチなどを、以下のピン割り当てに従ってF_PANELコネクタに接続してください。



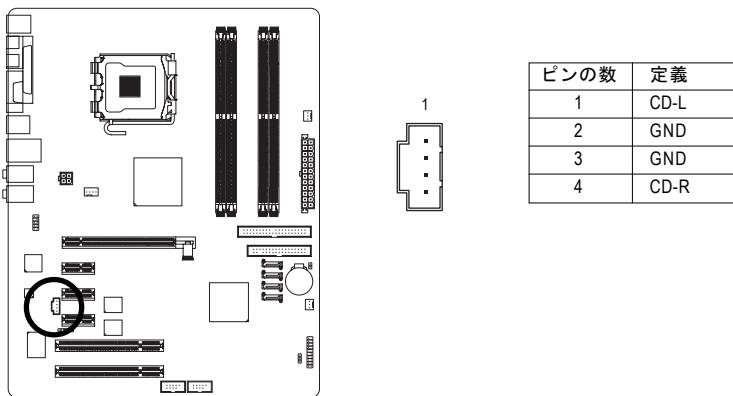
HD (IDE ハードディスクアクティブ LED) (青)	ピン1: LED 陽極(+) ピン2: LED 陰極(-)
SPEAK (スピーカーコネクタ) (黄褐色)	ピン1: VCC(+) ピン2- ピン3: NC ピン4: データ(-)
RES (リセットスイッチ) (緑)	開く: 標準操作 閉じる: ハードウェアシステムのリセット
PW (電源スイッチ) (赤)	開く: 標準操作 閉じる: 電源オン/オフ
MSG (メッセージ LED/電源/スリープ LED) (黄色)	ピン1: LED 陽極(+) ピン2: LED 陰極(-)
NC (紫)	NC

12) AZALIA_FP (前面オーディオパネルコネクタ)

ケーブルのピン割り当てがマザーボードヘッダのピン割り当てと同じであることを確認してください。ご購入いただいたシャーシが正面オーディオパネルコネクタをサポートしているかどうかは、販売店にお問い合わせください。

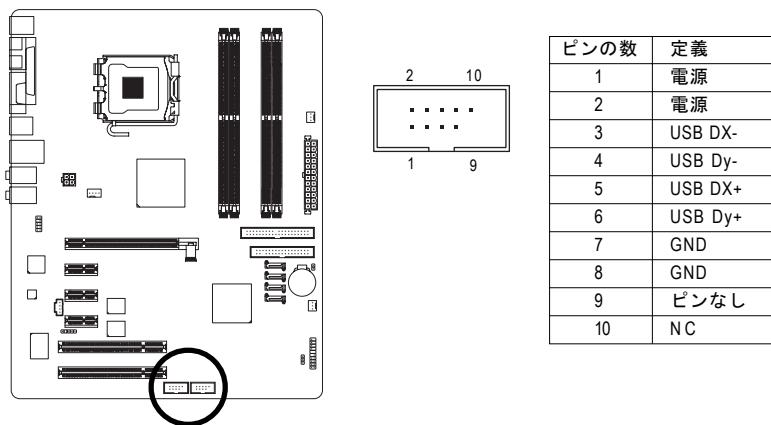
**13) CD_IN (CD入力コネクタ)**

CD-ROMまたはDVD-ROMオーディオ出力をコネクタに接続します。



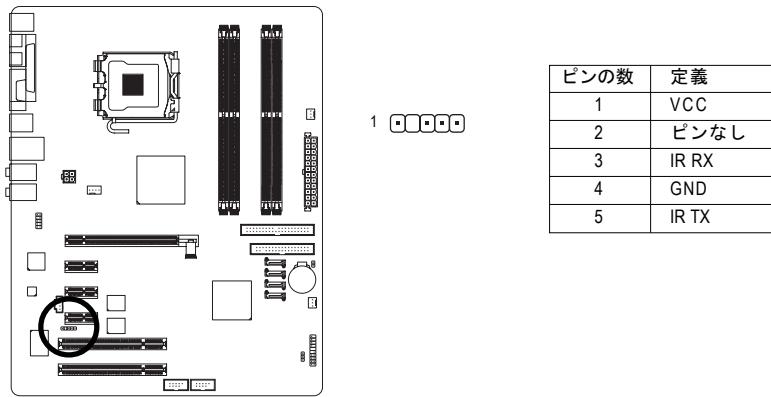
14) F_USB1 / F_USB2 (正面USBコネクタ)

正面USBコネクタの極性に注意してください。正面USBケーブルを接続している間、ピン割り当てを確認してください。ケーブルとコネクタを間違つて接続すると、デバイスが作動しないか、場合によっては損傷することがあります。オプションの正面USBケーブルについては、地域代理店にお問い合わせください。「S3からUSBデバイス呼び起こし」は、背面USBポートによってのみサポートされます。



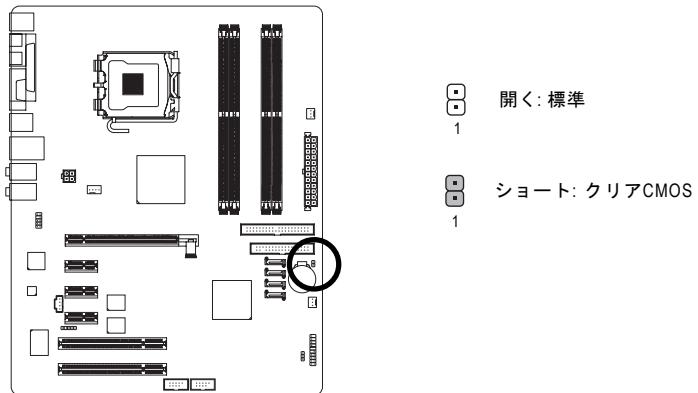
15) IR

IRを接続している間、IRコネクタの極性に注意してください。オプションのIRデバイスについては、最寄りの代理店にお問い合わせください。



16) CLR_CMOS (クリアCMOS)

このジャンパによって、CMOSデータを消去してその既定値に戻すことができます。CMOSを消去するには、一時的に1-2ピンをショートしてください。このジャンパを間違って使用できないように、既定値に「Shunter」は含まれていません。



第2章 BIOS セットアップ

BIOS(Basic Input and Output System)にはCMOSセットアップユーティリティが組み込まれております、要求される設定を構成したり、一部のシステム機能をアクティブにします。

CMOSセットアップは、マザーボードのCMOS SRAMに構成を保存します。電源がオフになるとき、マザーボードのバッテリはCMOS SRAMに必要な電力を供給します。

電源がオンになると、BIOS POST(パワーオンセルフテスト)の間にボタンを押すとCMOSセットアップ画面が表示されます。「Ctrl + F1」を押すと、BIOSセットアップ画面に入ります。

初めてBIOSをセットアップするとき、BIOSをオリジナルの設定にリセットする必用が生じた場合に備えて、現在のBIOSをディスクに保存しておくことをお勧めします。新しいBIOSにアップグレードしたい場合、GigabyteのQ-Flashまたは@BIOSユーティリティをご使用になれます。

Q-Flashは、オペレーティングシステムに入らずに、BIOSを素早く簡単に更新またはバックアップします。

@BIOSはWindowsベースのユーティリティで、BIOSをアップグレードする前にDOSを立ち上げずに、インターネットからBIOSを直接ダウンロードして更新します。

コントロールキー

<↑><↓><←><→>	アイテムの選択に・動
<Enter>	アイテムの選択
<Esc>	メインメニューでは、変更を保存せずに終了してCMOSステータスページセットアップメニューに入り、オプションページセットアップメニューでは、現在のページを終了し、メインメニューに戻ります
<Page Up>	数値を多くするか、変更します
<Page Down>	数値を少なくするか、変更します
<F1>	一般のヘルプ、ステータスページセットアップメニューおよびオプションページセットアップメニューのみを対象
<F2>	アイテムのヘルプ
<F5>	オプションページセットアップメニューでのみ、CMOSから前のCMOS値を回復します
<F6>	BIOS既定値テーブルから安全セーフ既定値CMOS値を読み込みます
<F7>	最適化された既定値を読み込みます
<F8>	Dual BIOS/Q-Flashユーティリティ
<F9>	システム情報
<F10>	メインメニューの場合のみ、すべてのCMOS変更を保存します

メインメニュー

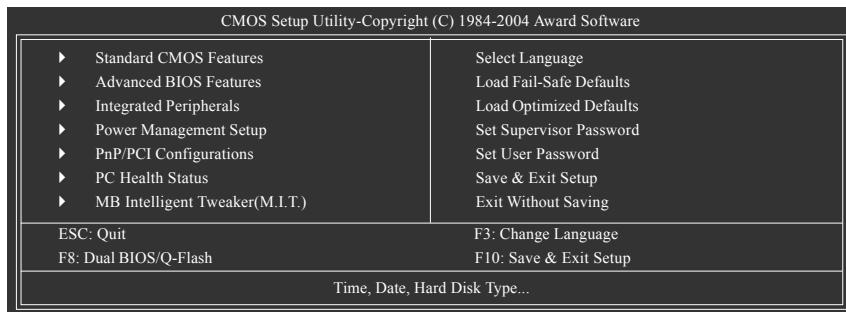
画面の下部に、反転表示したセットアップ機能のオンライン説明が表示されます。

ステータスページセットアップメニュー / オプションページセットアップメニュー

F1を押すと小さなヘルプウィンドウがポップアップ表示され、反転表示したアイテムを使用し選択するための正しいキーを説明します。ヘルプウィンドウを終了するには、<Esc>を押します。

メインメニュー (例: BIOS Ver. : F1)

Award BIOS CMOS セットアップユーティリティを起動すると、メインメニュー(下の図)が画面に表示されます。矢印キーでアイテムを選択し、<Enter>を押すとアイテムを受け入れるか、サブメニューが表示されます。



 希望する設定が見つからない場合、「Ctrl+F1」を押して非表示になっている詳細設定オプションを検索してください。システムが正常に作動しなかったり不安定な場合、BIOSの最適化された既定値を読み込んでください。このアクションにより、システムは既定値にリセットされて安定性が得られます。

■ Standard CMOS Features

このセットアップページには、標準互換BIOSのすべてのアイテムが含まれます。

■ Advanced BIOS Features

このセットアップページには、Awardの特別な拡張機能のすべてのアイテムが含まれます。

■ Integrated Peripherals

このセットアップページには、オンボード周辺機器のすべてのアイテムが含まれます。

■ Power Management Setup

このセットアップページには、グリーン機能のすべてのアイテムが含まれます。

■ PnP/PCI Configuration

このセットアップページには、PCIとPnP ISAリソースのすべての設定が含まれます。

■ PC Health Status

このセットアップページでは、システムが温度、電圧、ファン、速度などを自動検出します。

■ MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)

このセットアップページは、CPUのクロックや周波数比をコントロールします。

■ Select Language

このセットアップページは、多言語を選択します。

■ Load Fail-Safe Defaults

フェールセーフ既定値は、システムを安全に設定するシステムパラメータの値を示します。



■ **Load Optimized Defaults**

最適化既定値は、システムを最適パフォーマンスで動作すると思われるシステムパラメータの値を示します。

■ **Set Supervisor Password**

パスワードの変更、設定、または無効の設定ができます。この設定により、システムとセットアップ、またはセットアップの際のアクセスを制限できます。

■ **Set User Password**

パスワードの変更、設定、または無効の設定ができます。この設定により、システムへのアクセスを制限できます。

■ **Save & Exit Setup**

CMOS値設定をCMOSに保存し、セットアップを終了します。

■ **Exit Without Saving**

すべてのCMOS値の変更を破棄し、セットアップを終了します。

2-1 Standard CMOS Features

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2004 Award Software Standard CMOS Features		
Date (mm:dd:yy) Time (hh:mm:ss)	Thu, Jun 17 2004 22:31:24	Item Help Menu Level▶
► IDE Channel 0 Master	[None]	Change the day, month, year
► IDE Channel 0 Slave	[None]	
Drive A	[1.44M, 3.5"]	<Week>
Drive B	[None]	Sun. to Sat.
Floppy 3 Mode Support	[Disabled]	<Month>
Halt On	[All, But Keyboard]	Jan. to Dec.
Base Memory	640K	<Day>
Extended Memory	511M	1 to 31 (or maximum allowed in the month)
Total Memory	512M	
		<Year> 1999 to 2098
↑↓←→: Move Enter: Select +/-PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F3: Language F5: Previous Values F6: Fail-Save Default F7: Optimized Defaults		

⌚ Date

- 日付形式は<週>、<月>、<日>、<年>です。
- Week BIOSによって決定される日から土まで。表示のみです。
 - Month 1月から12月まで。
 - Day 1から28、29、30、31まで。(月の最終日)
 - Year 1999から2098まで。

⌚ Time

時間形式は<時><分><秒>です。時間は、軍時計での24時間表示です。例: 1 p.m. は 13:00:00。

⌚ IDE Channel 0 Master, Slave

- IDE HDD自動検出デバイスを自動検出するには、「Enter」を押してこのオプションを選択してください。
- IDE Channel 0 Master/Slave IDEデバイスセットアップ。次の3つの方のどれかを使用できます。

- | | |
|------|--|
| Auto | POST中に、BIOSがIDEデバイスを自動的に検出します(既定値)。 |
| None | IDEデバイスが使用されていない場合にこの方式を選択すると、システムは検出ステップを自動的にスキップして、システムはすばやく起動します。 |

Manual 正しい設定を手動で入力できます。

- Access Mode このアイテムを使用して、ハードドライブのアクセスモードを設定します。次の4つのオプションがあります: CHS/LBA/Large/Auto(既定値: Auto)。ハードドライブ情報は、ドライブケースの外側のラベルに表示されています。この情報に基づいて、適切なオプションを入力してください。

► Cylinder シリンダー数

► Head ヘッド数

► Precomp ディスクドライブが現在の書き込みを変更するシリンダ数

► Landing Zone ランディングゾーン

► Sector セクタ数

ハードディスクが接続されていない場合、NONEを選択し<Enter>を押してください。



☞ **Drive A / Drive B**

このカテゴリーは、コンピュータに取り付けられたフロッピーディスク ドライブAとBのタイプを識別します。

- » None フロッピードライブなし
- » 360K, 5.25" 5.25インチ PC タイプ標準 ドライブ: 360Kバイト容量。
- » 1.2M, 5.25" 5.25インチ AT タイプ高密度 ドライブ: 1.2Mバイト容量。
(3 モードが Enabled のときは 3.5インチ)。
- » 720K, 3.5" 3.5インチダブルサイド ドライブ、720Kバイト容量。
- » 1.44M, 3.5" 3.5インチダブルサイド ドライブ、1.44Mバイト容量。
- » 2.88M, 3.5" 3.5インチダブルサイド ドライブ、2.88Mバイト容量。

☞ **Floppy 3 Mode Support (日本のみ)**

- » Disabled 通常フロッピードライブ。(既定値)。
- » Drive A ドライブAの3モードフロッピードライブ。
- » Drive B ドライブBの3モードフロッピードライブ。
- » Both ドライブAとBは3モードフロッピードライブ。

☞ **Halt on**

このカテゴリーは、電源オン時にエラーが検出された場合、コンピュータを停止するかどうかを決定します。

- » No Errors エラーが検出された場合でもシステムは起動を停止しません。
- » All Errors BIOSが致命的でないエラーを検出したとき、システムは停止します。
- » All, But Keyboard キーボードエラー以外のエラーで、システムは停止します。
(既定値)
- » All, But Diskette ディスクエラー以外のエラーでシステムは停止します。
- » All, But Disk/Key キーボードエラー、またはディスクエラー以外のエラーでシステムは停止します。

☞ **Memory**

このカテゴリーは表示専用で、BIOS の POST (パワーオンセルフテスト) によって決定されます。

» **Base Memory**

BIOS の POST が、システムに搭載されている基本 (またはコンベンショナル) メモリの容量を検出します。

基本メモリの値は一般的に、マザーボードに搭載されているメモリが 512K の場合は 512K、640K またはそれ以上の場合は 640K と表示します。

» **Extended Memory**

BIOS が POST 中に検出された拡張メモリの容量を割り出します。

これは、CPU のメモリアドレスマップの 1 MB 以上に位置するメモリの容量です。

» **Total Memory**

このアイテムは、使用しているメモリサイズを表示します。



2-2 Advanced BIOS Features

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2004 Award Software			
Advanced BIOS Features			
▶ Hard Disk Boot Priority	[Press Enter]	Item Help	
First Boot Device	[Floppy]	Menu Level▶	
Second Boot Device	[Hard Disk]		
Third Boot Device	[CDROM]	Select Hard Disk Boot	
Password Check	[Setup]	Device Priority	
# CPU Hyper-Threading	[Enabled]		
Limit CPUID Max. to 3	[Enabled]		

 "# HTテクノロジを搭載したIntel® Pentium® 4プロセッサを取り付けると、システムは自動的に検出し表示します。

- ☞ **Hard Disk Boot Priority**
オンボード(またはアドオンカード)SCSI、RAIDなどの起動優先シーケンスを選択します。
<↑>または<↓>を使用してデバイスを選択し、<+>を押してリストを上に移動するか、
<->を押して下に移動します。このメニューを終了するには、<ESC>を押します。
 - ☞ **First / Second / Third Boot Device**
 - » Floppy フロッピーによる起動デバイス優先順位を選択します。
 - » LS120 LS120による起動デバイス優先順位を選択します。
 - » Hard Disk ハードディスクによる起動デバイス優先順位を選択します。
 - » CDROM CDROMによる起動デバイス優先順位を選択します。
 - » ZIP ZIPによる起動デバイス優先順位を選択します。
 - » USB-FDD USB-FDDによる起動デバイス優先順位を選択します。
 - » USB-ZIP USB-ZIPによる起動デバイス優先順位を選択します。
 - » USB-CDROM USB-CDROMによる起動デバイス優先順位を選択します。
 - » USB-HDD USB-HDDによる起動デバイス優先順位を選択します。
 - » LAN LANによる起動デバイス優先順位を選択します。
 - » Disabled Disabledによる起動デバイス優先順位を選択します。
 - ☞ **Password Check**
 - » Setup 正しいパスワードを入力しないと、システムは起動しますがセットアップページにアクセスできません。(既定値)
 - » System 正しいパスワードを入力しないと、システムも起動せずセットアップページにもアクセスできません。



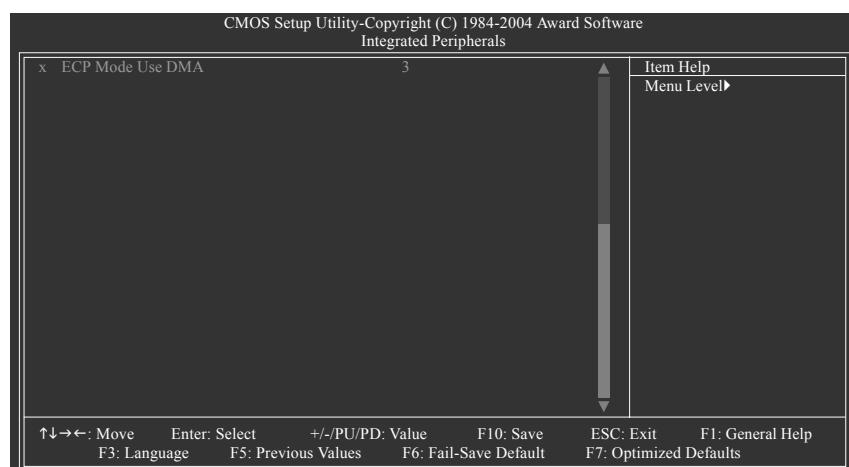
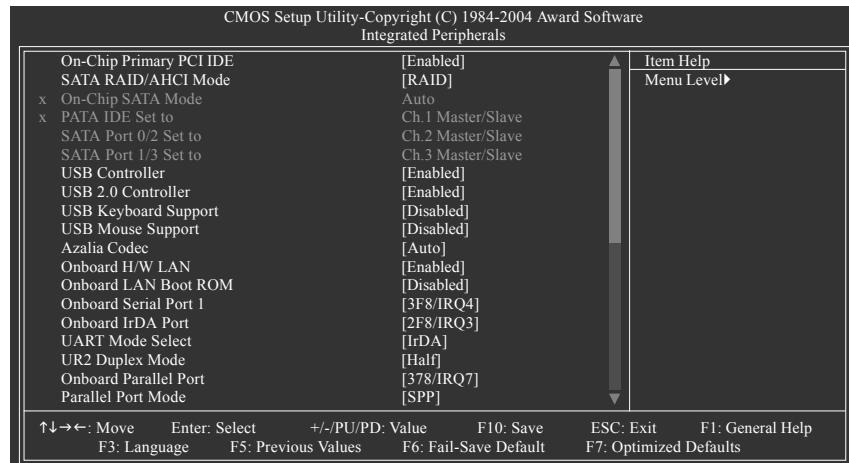
☞ **CPU Hyper-Threading**

- » Enabled CPUハイパースレッディング機能を有効にします。この機能は、マルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ機能することをご注意ください。(既定値)
- » Disabled CPUハイパースレッディングを無効にします。

☞ **Limit CPUID Max. to 3**

- » Enabled NT4のようなふるいOSを使用しているとき、CPUIDの最大値を3に制限します。(既定値)
- » Disabled Windows XPに対してCPUID制限を無効にします。

2-3 Integrated Peripherals



⌚ On-Chip Primary PCI IDE

- Enabled オンボードの最初のチャネルIDEポートを有効にします。(既定値)
- Disabled オンボードの最初のチャネルIDEポートを無効にします。

⌚ SATA RAID / AHCI Mode

- RAID オンボードシリアルATA機能をRAIDとして選択します。(既定値)
- AHCI OSの元でホットプラグ機能をサポートします。WinXP、2000のみ。
- Disabled オンボードシリアルATA機能をATAとして選択します。



⌚ On-Chip SATA Mode

- ▶ Disabled この機能を無効にします。
BIOSが自動検出します。(既定値)
- ▶ Auto オンチップSATAモードを結合に設定します。マザーボードで最大4台のHDDを、2台はSATAとして、もう2台はPATAとして使用できます。
- ▶ Combined オンチップSATAモードをEnhancedに設定します。マザーボードは最大6台のHDDを使用します。
- ▶ Non-Combined オンチップSATAモードをNon-Combinedに設定します。SATAはPATAモードにシミュレートします。

⌚ PATA IDE Set to

- ▶ Ch.1 Master/Slave PATA IDEをCh. 1 Master/Slaveに設定します。(既定値)
- ▶ Ch.0 Master/Slave PATA IDEをCh. 0 Master/Slaveに設定します。

⌚ SATA Port 0/2 Set to

- ▶ 「On-Chip SATA Mode」と「PATA IDE Set to」を設定することにより、この値は自動的に構成されます。
PATA IDEがCh. 1 Master/Slaveに設定されていると、この機能はCh. 0 Master/Slaveに自動的に設定されます。

⌚ SATA Port 1/3 Set to

- ▶ 「On-Chip SATA Mode」と「PATA IDE Set to」を設定することにより、この値は自動的に構成されます。
PATA IDEがCh. 0 Master/Slaveに設定されていると、この機能はCh. 1マスター/スレーブに自動的に設定されます。

⌚ USB Controller

- ▶ Enabled USBコントローラを有効にします。(既定値)
- ▶ Disabled USBコントローラを無効にします。

⌚ USB 2.0 Controller

- オンボードUSB 2.0機能を使用しない場合、この機能を無効にできます。
- ▶ Enabled USB 2.0コントローラを有効にします。(既定値)
- ▶ Disabled USB 2.0コントローラを無効にします。

⌚ USB Keyboard Support

- ▶ Enabled USBキーボードのサポートを有効にします。
- ▶ Disabled USBキーボードのサポートを無効にします。(既定値)

⌚ USB Mouse Support

- ▶ Enabled USBマウスのサポートを有効にします。
- ▶ Disabled USBマウスのサポートを無効にします。(既定値)

⌚ Azalia Codec

- ▶ Auto Azaliaオーディオ機能を自動検出します。(既定値)
- ▶ Disabled この機能を無効にします。

⌚ Onboard H/W LAN

- ▶ Enabled オンボードH/W LAN機能を有効にします。(既定値)
- ▶ Disabled この機能を無効にします。

⌚ Onboard LAN Boot ROM

- この機能は、オンボードLANチップのブートROMを呼び起すかどうかを決定します。
- ▶ Enabled この機能を有効にします。
- ▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)

- ☞ **Onboard Serial Port 1**
 - ▶ Auto BIOSがポート1アドレスを自動的にセットアップします。
 - ▶ 3F8/IRQ4 オンボードシリアルポート1を有効、IRQ4を使用して、アドレスを3F8に設定します。(既定値)
 - ▶ 2F8/IRQ3 オンボードシリアルポート1を有効、IRQ3を使用して、アドレスを2F8に設定します。
 - ▶ 3E8/IRQ4 オンボードシリアルポート1を有効、IRQ4を使用して、アドレスを3E8に設定します。
 - ▶ 2E8/IRQ3 オンボードシリアルポート1を有効、IRQ3を使用して、アドレスを2E8に設定します。
 - ▶ Disabled オンボードシリアルポート1を無効にします。
- ☞ **Onboard IrDA Port**
 - ▶ Auto BIOSがポート1アドレスを自動的にセットアップします。
 - ▶ 3F8/IRQ4 オンボードIrDAポートを有効、IRQ4を使用して、アドレスを3F8に設定します。
 - ▶ 2F8/IRQ3 オンボードIrDAポートを有効、IRQ3を使用して、アドレスを2F8に設定します。(既定値)
 - ▶ 3E8/IRQ4 オンボードIrDAポートを有効、IRQ4を使用して、アドレスを3E8に設定します。
 - ▶ 2E8/IRQ3 オンボードIrDAポートを有効、IRQ3を使用して、アドレスを2E8に設定します。
 - ▶ Disabled オンボードIrDAポートを無効にします。
- ☞ **UART Mode Select**

このアイテムは、オンボードI/Oチップの赤外線(IR)機能を決定します。

 - ▶ IrDA オンボードI/OチップUARTをIrDAモードに設定します。(既定値)
 - ▶ ASKIR オンボードI/OチップUARTをASKIRモードに設定します。
- ☞ **UR2 Duplex Mode**

この機能は、IRモードを選択します。

 - ▶ Half IR機能デュプレックスハーフ。(既定値)
 - ▶ Full IR機能デュプレックスフル。
- ☞ **Onboard Parallel port**
 - ▶ Disabled オンボードLPTポートを無効にします。
 - ▶ 378/IRQ7 オンボードLPTポートを有効、IRQ7を使用して、アドレスを378に設定します。(既定値)
 - ▶ 278/IRQ5 オンボードLPTポートを有効、IRQ5を使用して、アドレスを278に設定します。
 - ▶ 3BC/IRQ7 オンボードLPTポートを有効、IRQ7を使用して、アドレスを3BCに設定します。
- ☞ **Parallel Port Mode**
 - ▶ SPP パラレルポートを標準パラレルポートに設定します。(既定値)
 - ▶ EPP パラレルポートを拡張パラレルポートに設定します。
 - ▶ ECP パラレルポートを拡張機能ポートに設定します。
 - ▶ ECP+EPP パラレルポートをECP & EPPモードに設定します。
- ☞ **ECP Mode Use DMA**
 - ▶ 3 ECPモード使用DMAを3に設定します(既定値)。
 - ▶ 1 ECPモード使用DMAを1に設定します。



2-4 Power Management Setup

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2004 Award Software Power Management Setup		
ACPI Suspend Type	[S1(POS)]	Item Help
Soft-Off by PWR-BTTN	[Instant-off]	Menu Level▶
PME Event Wake Up	[Enabled]	
Power On by Ring	[Enabled]	
Resume by Alarm	[Disabled]	
x Date (of Month) Alarm	Everday	
x Time (hh:mm:ss) Alarm	0 : 0 : 0	
Power On by Mouse	[Disabled]	
Power On by Keyboard	[Disabled]	
x KB Power ON Password	Enter	
AC Back Function	[Soft-Off]	

⌚ ACPI Suspend Type

- ▶▶ S1(POS) ACPIサスPENDの種類をS1/POS(電源オンサスPEND)に設定します。
(既定値)
- ▶▶ S3(STR) ACPIサスPENDの種類をS3/STR(オナサスPENDトゥRAM)に設定します。

⌚ Soft-off by PWR-BTTN

- ▶▶ Instant-off 電源ボタンを押すとすぐに電源がオフになります。(既定値)
- ▶▶ Delay 4 Sec. このボタンを4秒間押すと、電源がオフになります。4秒以下の場合はサスPENDモードに入ります。

⌚ PME Event Wake Up

この機能は、5VSBリード線で少なくとも1Aを提供するATX電源装置を必要とします。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。
- ▶▶ Enabled 呼び起しイベントとしてPMEを有効にします。(既定値)

⌚ Power On by Ring

- ▶▶ Disabled リング機能による電源オンを無効にします。
- ▶▶ Enabled リング機能による電源オンを有効にします。(既定値)

⌚ Resume by Alarm

「Resume by Alarm」アイテムを有効に設定すると、日付や時間でシステムの電源をオンにすることができます。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - ▶▶ Enabled この機能を有効にしてシステムの電源をオンにします。
- RTC Alarm Lead To Power Onが使用可能の時は、以下のように設定します。
- ▶▶ Date (of Month) Alarm : 毎日、1~31
 - ▶▶ Time (hh: mm: ss) Alarm : (0~23) : (0~59) : (0~59)

⌚ Power On by Mouse

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶▶ Double Click PS/2マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムの電源がオンになります。

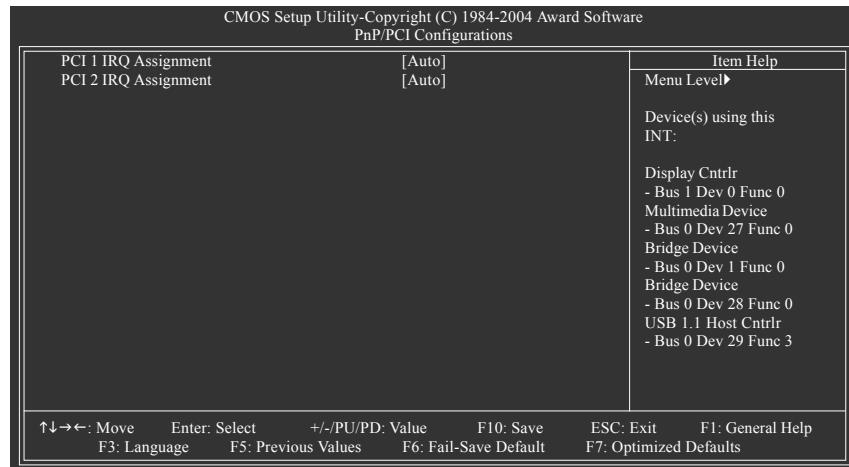
- ☞ **Power On by Keyboard**
 - » Password パスワードを入力し(1-5文字)、Enterを押してキーボードの電源オフ用パスワードを設定します。
 - » Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - » Keyboard 98 お使いのキーボードが「POWER Key」ボタンを搭載していれば、このキーを押すことでシステムの電源をオンにできます。
- ☞ **KB Power ON Password**

「Power On by Keyboard」がパスワードで設定されているとき、ここでパスワードを設定できます。

 - » Enter パスワードを入力し(1-5文字)、Enterを押してキーボードの電源オフ用パスワードを設定します。
- ☞ **AC Back Function**
 - » Soft-Off AC電源が回復すると、システムは「オフ」の状態になります。
(既定値)
 - » Full-On AC電源が回復すると、システムは常に「オン」の状態になります。
 - » Memory AC電源が回復すると、システムはAC電源がオフになる前の常態に戻ります。



2-5 PnP/PCI Configurations



PCI 1 IRQ Assignment

- » Auto IRQ を PCI 1 に自動的に割り当てます。(既定値)
- » 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を PCI 1 に設定します。

PCI 2 IRQ Assignment

- » Auto IRQ を PCI 2 に自動的に割り当てます。(既定値)。
- » 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を PCI 2 に設定します。



2-6 PC Health Status

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2004 Award Software PC Health Status		
Vcore	OK	Item Help
DDR18V	OK	Menu Level▶
+3.3V	OK	[Disabled] Don't reset case
+12V	OK	open status
Current CPU Temperature	50°C	[Enabled] open
Current CPU FAN Speed	3308 RPM	Clear case open status
Current POWER FAN Speed	0 RPM	and set to be Disabled
Current SYSTEM FAN Speed	0 RPM	at next boot
CPU Warning Temperature	[Disabled]	
CPU FAN Fail Warning	[Disabled]	
POWER FAN Fail Warning	[Disabled]	
SYSTEM FAN Fail Warning	[Disabled]	
CPU Smart FAN Control	[Enabled]	
CPU FAN PIN Type	[3 PIN]	

↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help
F3: Language F5: Previous Values F6: Fail-Save Default F7: Optimized Defaults

⌚ Current Voltage(V) Vcore / DDR18V / +3.3V / +12V

▶ ディスプレイの電圧ステータスを自動検出します。

⌚ Current CPU Temperature

▶ CPU温度を自動的に検出します。

⌚ Current CPU/POWER/SYSTEM FAN Speed (RPM)

▶ CPU/電源/システムファン速度のステータスを自動的に検出します。

⌚ CPU Warning Temperature

▶ 60°C / 140°F 60°C / 140°F でCPUの温度をモニタします。

▶ 70°C / 158°F 70°C / 158°F でCPUの温度をモニタします。

▶ 80°C / 176°F 80°C / 176°F でCPUの温度をモニタします。

▶ 90°C / 194°F 90°C / 194°F でCPUの温度をモニタします。

▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)

⌚ CPU/POWER/SYSEM FAN Fail Warning

▶ Disabled ファン警告機能を無効にします。(既定値)

▶ Enabled ファン警告機能を有効にします。

⌚ CPU Smart FAN Control

▶ Disabled この機能を無効にします。

▶ Enabled CPUスマートファンコントロール機能を有効にします。(既定値)

a. CPU温度が65°Cより高い場合、CPUファンは全速で作動します。
b. 温度が41°C以上65°C以下の場合、CPUファンの速度は温度に従って直線的に増加します。

c. CPU温度が40°Cより低い場合、CPUファンは無効になります。



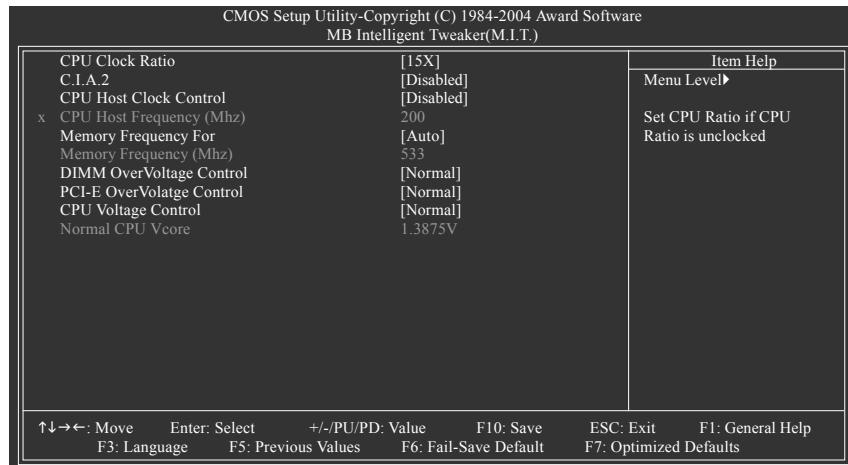
☞ CPU FAN PIN Type

「CPU Smart FAN Control」機能が正常に作動するように、使用しているCPUファンに従つてピン番号を設定してください。

- ▶ 3 PIN CPU ファンのタイプを3ピンに設定します。 (既定値)
- ▶ 4 PIN CPU ファンのタイプを4ピンに設定します。



2-7 MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)



これらの機能を間違って使用すると、システム故障の原因となります。パワーユーザーのみ使用してください。

CAUTION

CPU Clock Ratio

このセットアップオプションは、CPU検出により自動的に割り当てられます。
CPU速度が変更できない場合のみ、オプションは「Locked」を表示し読み取り専用となります。

C.I.A.2

C.I.A.2 (CPUインテリジェントアクセラレータ2) は、ソフトウェアプログラム実行中にCPUローディングを検出するように設計されており、CPUコンピューティングパワーを自動的に調整してシステムパフォーマンスを最大限に高めます。

- Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- Cruise C.I.A.2をCruiseに設定します。CPUローディングによりCPU周波数を自動的に増加します(3%,5%,7%)。
- Sports C.I.A.2をSportsに設定します。CPUローディングによりCPU周波数を自動的に増加します(5%,7%,9%)。
- Racing C.I.A.2をRacingに設定します。CPUローディングによりCPU周波数を自動的に増加します(7%,9%,11%)。
- Turbo C.I.A.2をTurboに設定します。CPUローディングによりCPU周波数を自動的に増加します(13%,15%,17%)。
- Full Thrust C.I.A.2をFull Thrustに設定します。CPUローディングによりCPU周波数を自動的に増加します(15%,17%,19%)。

警告: 安定性はシステムコンポーネントに大きく依存します。

CPU Host Clock Control

システムがオーバークロックされ再起動できない場合、システムが再起動するまで20秒待つか、CMOSセットアップデータをクリアして安全再起動を実行します。

- Disabled CPUホストクロックコントロールを無効にします。(既定値)
- Enabled CPUホストクロックコントロールを有効にします。



⌚ CPU Host Frequency(Mhz)

「CPU Host Clock Control」が有効に設定されているとき、このアイテムを使用できます。

- ▶ 100MHz ~ 355MHz CPUホストクロックを100MHzから355MHzに設定します。
- 533MHz FSB プロセッサを使用する場合、「CPU Clock」を133MHzに設定します。800MHz FSB プロセッサを使用する場合、「CPU Clock」を200MHzに設定します。

これらの機能を間違って使用すると、システム故障の原因となります。パワーユーザーのみ使用してください。

⌚ Memory Frequency For

間違った周波数を設定すると、システムが起動しないことがあります。CMOSをクリアして間違った周波数問題を解決してください。

FSB(フロントサイドバス)周波数=533MHzの場合、

- ▶ 3 メモリ周波数=ホストクロックX3
- ▶ 4 メモリ周波数=ホストクロックX4
- ▶ Auto DRAM SPDデータによりメモリ周波数を設定します。(既定値)

FSB(フロントサイドバス)周波数=800MHzの場合、

- ▶ 2.00 メモリ周波数=ホストクロックX2
- ▶ 2.66 メモリ周波数=ホストクロックX2.66
- ▶ 3.00^(注) メモリ周波数=ホストクロックX3
- ▶ Auto DRAM SPDデータによりメモリ周波数を設定します。(既定値)

⌚ Memory Frequency (Mhz)

値は「メモリ周波数」アイテムにより異なります。

⌚ DIMM OverVoltage Control

DIMM電圧の増加によりシステムをオーバークロックすると、メモリが破損することがあります。

- ▶ Normal DIMM過電圧コントロールを標準に設定します。(既定値)
- ▶ +0.1V DIMM過電圧コントロールを+0.1Vに設定します。
- ▶ +0.2V DIMM過電圧コントロールを+0.2Vに設定します。
- ▶ +0.3V DIMM過電圧コントロールを+0.3Vに設定します。

⌚ PCI-E OverVoltage Control

- ▶ Normal PCI Express過電圧コントロールを標準に設定します。(既定値)
- ▶ +0.1V PCI Express過電圧コントロールを+0.1Vに設定します。
- ▶ +0.2V PCI Express過電圧コントロールを+0.2Vに設定します。
- ▶ +0.3V PCI Express過電圧コントロールを+0.3Vに設定します。

⌚ CPU Voltage Control

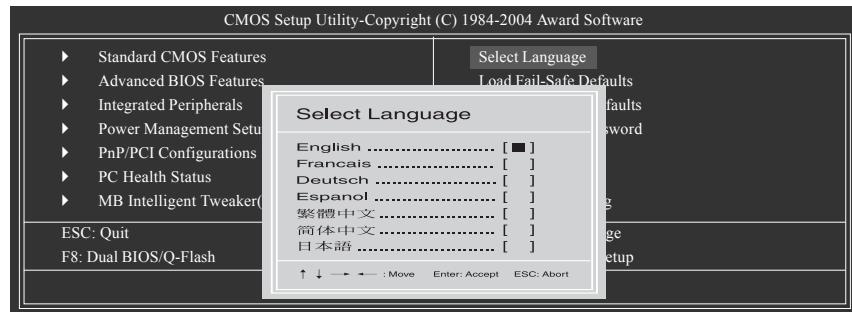
- ▶ 0.8375V から 1.6000V まで調整可能なCPU Vcore をサポートします。(既定値: Normal)
- 警告: CPUに過電圧をかけると、CPUが破損したりCPUの寿命が短くなることがあります。

⌚ Normal CPU Vcore

CPU Vcore電圧を表示します。

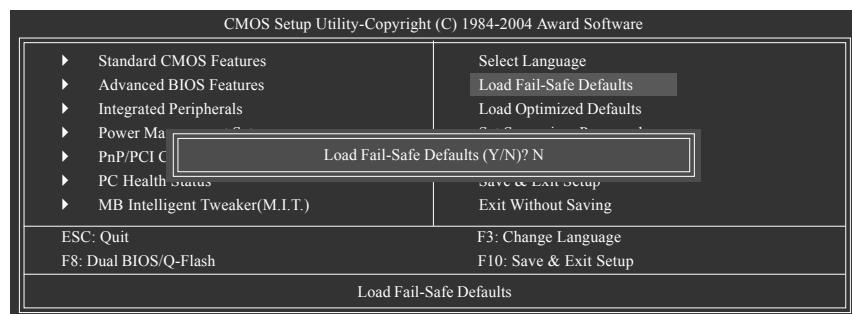
(注) マザーボードでDDRII 600メモリモジュールを使用するには、800MHz FSB プロセッサを取り付け、メモリ周波数を3.00に設定する必要があります。

2-8 Select Language



多言語は次の7ヶ国語をサポートします。英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、繁体字中国語、簡体字中国語、日本語。

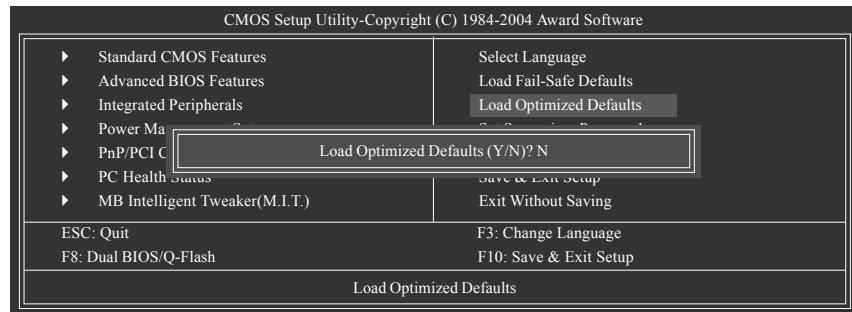
2-9 Load Fail-Safe Defaults



フェールセーフ既定値は、最低限のシステムパフォーマンスにもっとも適切なシステムパラメータ値を含んでいます。

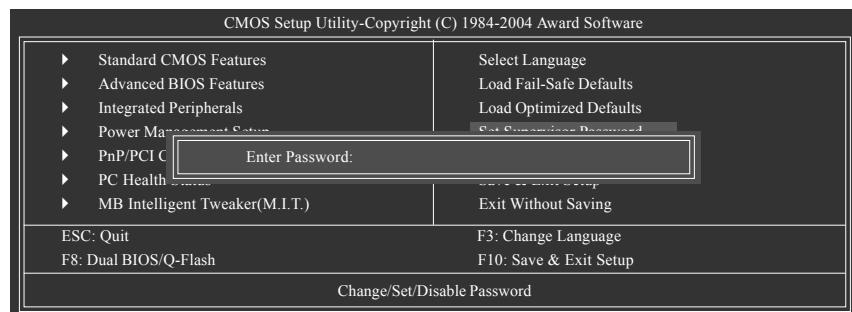


2-10 Load Optimized Defaults



このフィールドを選択すると、システムがBIOSとチップセット機能の初期設定を自動的に検出し、ロードします。

2-11 Set Supervisor/User Password



このフィールドを選択すると、システムがBIOSとチップセット機能の初期設定を自動的に検出し、ロードします。

本機能を選択すると、画面中央に次のメッセージが表示され、パスワードを作成することができます。

8文字以内でパスワードを入力し、<Enter>を押します。パスワードを確認するように求められます。パスワードを再入力し、<Enter>を押します。または、<Esc>を押して選択を破棄し、パスワードを設定しないこともできます。

パスワードを無効に刷るには、パスワード入力画面で<Enter>を押します。「PASSWORD DISABLED」という確認画面が表示され、パスワードが無効になります。これで、システム起動も、セットアップに入ることも自由にできます。

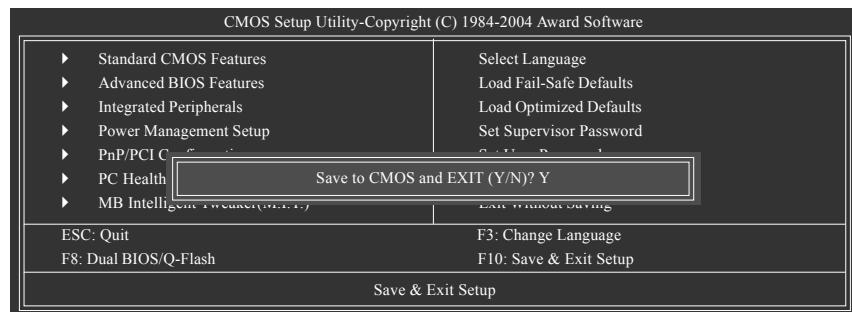
BIOSセットアッププログラムでは、2種類のパスワード設定ができます：

SUPERVISOR PASSWORDとUSER PASSWORDです。無効の場合、だれでもすべてのBIOSセットアッププログラム機能にアクセスできます。有効の場合、BIOSセットアッププログラムの全項目にアクセスするには管理者パスワードが要求され、基本的な項目のみにアクセスするにはユーザーパスワードが必要になります。

拡張機能メニューの「Password Check」で「System」を選択すると、システムを再起動し、セットアップメニューに入るたびにパスワードの入力が必要になります。

拡張BIOS機能メニューの「Password Check」で「Setup」を選択すると、セットアップに入る際のみパスワードの入力が必要になります。

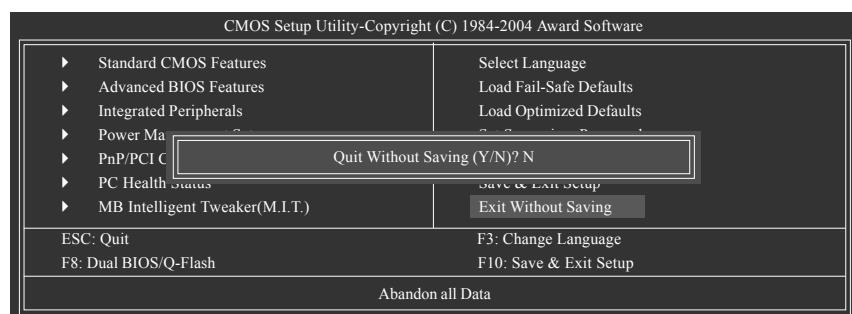
2-12 Save & Exit Setup



セットアップユーティリティを終了し、設定値をRTC CMOSに保存する場合は、「Y」を入力します。

セットアップユーティリティに戻るには、「N」を入力します。

2-13 Exit Without Saving



設定値をRTC CMOSに保存せずにセットアップユーティリティを終了する場合は、「Y」を入力します。

セットアップユーティリティに戻るには、「N」を入力します。



第3章 ドライバのインストール

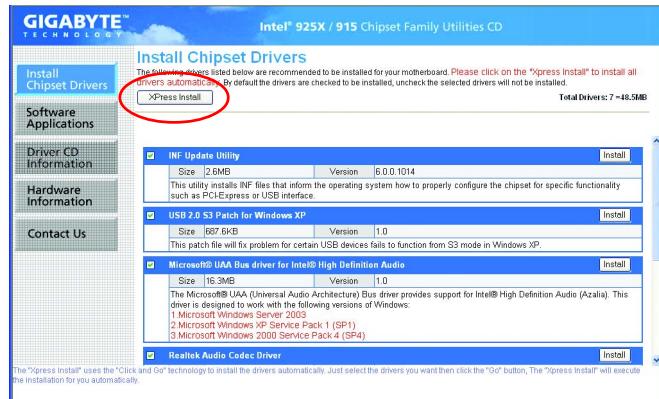


下の図は、Windows XPで表示されます。
マザーボードに付属するドライバCDタイトルをCD-ROMに挿入すると、ドライバCDタイトルが自動実行され、インストールガイドが表示されます。自動実行されない場合、「マイコンピュータ」のCD-ROMデバイスアイコンをダブルクリックし、Run.exeを実行してください。

3-1 Install Chipset Drivers

"Xpress Install" is now analyzing your computer...99%

ドライバCDを挿入すると、「Xpress Install」がシステムを自動的にインストールし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。希望するアイテムを選択し、「install」を押してください。または、「Xpress Install」を押して既定値のすべてのアイテムをインストールすることもできます。



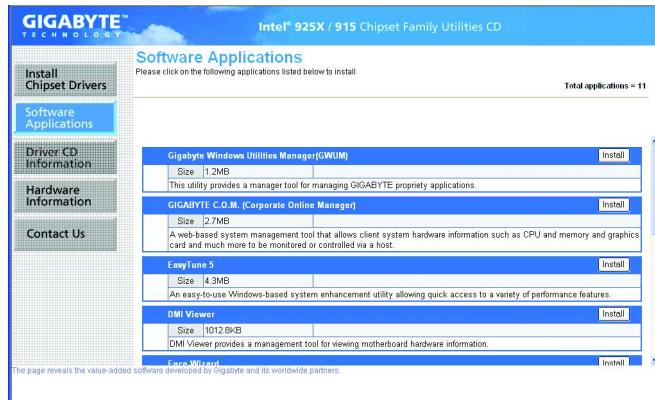
デバイスドライバには、システムを自動的に再起動するものもあります。その場合は、システムを再起動した後、「Xpress Install」が残りのドライバを引き続きインストールします。
ドライバのインストール後システムは自動的に再起動し、その後、他のアプリケーションをインストールできます。



Windows XPオペレーティングシステムでUSB2.0ドライバをサポートするには、Windows Service Packを使用してください。Windows Service Packのインストール後、「Device Manager」 - 「Universal Serial Bus controller」の中に「?」マークが表示されます。このマークを削除し、システムを再起動してください(システムは正しいUSB2.0ドライバを自動的に検出します)。

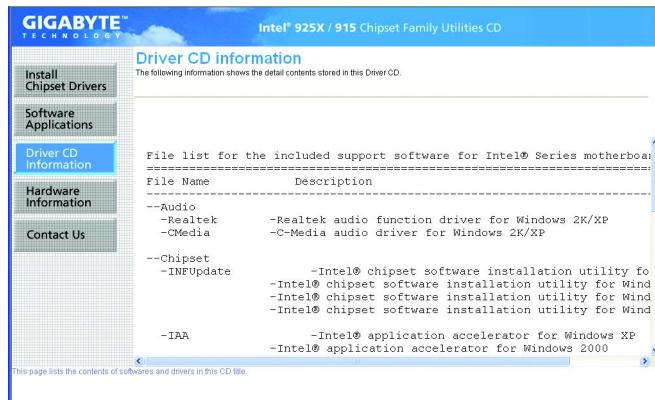
3-2 Software Applications

このページでは、Gigabyte が開発したすべてのツールと一部の無償ソフトウェアを表示します。希望するアイテムを選択し、「install」を押してインストールできます。



3-3 Driver CD Information

このページは、このCDタイトルのソフトウェアとドライバの内容をリストアップします。





3-4 Hardware Information

このページは、このマザーボード用に取り付けたすべてのデバイスをリストアップします。

The screenshot shows the 'Hardware information' section of the software. It displays detailed hardware specifications for a motherboard, including BIOS info, CPU info, and memory info. A specific device entry for a Tessel Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller is highlighted.

Hardware information
The following information shows the detail hardware information of your motherboard.

Device Description: Tessel Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller
Device DriverDate: 7-1-2001
Device DriverVer: 1.0.2.1255.0
Device DriverProvider: Microsoft
Device VendorID: 0x8025104c
Device SubSystemID: 0x00000000
Device RevID: 01

3-5 Contact Us

詳細については、最後のページをご覧ください。

The screenshot shows the 'Contact Us' page with a globe graphic. It lists contact information for several regions:

- Taiwan (Headquarters)**:
GIGABYTE TECHNOLOGY CO., LTD.
No. 6F, 128, Sec. 2, HsinChu Science & Technology Park
Taipei HsinChu Taiwan, R.O.C.
Tel: +886-3-574-0000
Fax: +886-2-8912-4003
<http://www.gigabyte.com.tw>
- China (Office)**:
Shanghai
Tel: +86-21-63410999
Fax: +86-21-63410100
Toll Free: +86-21-63410000
- China (Office)**:
Beijing
Tel: +86-10-62886051
Fax: +86-10-62886013
<http://www.gigabyte.com.cn>
- China (Offices)**:
GuangZhou
Tel: +86-20-32379074
Fax: +86-20-32351783
<http://www.gigabyte.com.cn>
- China (Offices)**:
Shenzhen
Tel: +86-20-82336530
Fax: +86-20-82336531
<http://www.gigabyte.com.cn>
- U.K.**:
G.B.T. INC.
10000, 10000, 10000
Fax: +1(650) 654-9338
<http://www.gigabyte.co.uk>
- Germany**:
G.B.T. TECHNOLOGY TRADING GMBH
Luisenstrasse 10
+49-1030-423463 (Tech.)
+49-1030-423464 (Sales)
+49-1030-423229 (Tech.)
- The Netherlands**:
GIGABYTE TECHNOLOGY B.V.
Drienerlolaan 10
NL Tech Support: 0900-010000
NL Sales: 0900-010001
EE Tech Support: 0900-840254
Fax: +31-40-2382000
- Japan**:
TECHNICAL SUPPORT CENTER ON GIGABYTE CORPORATION
Tel: +81-3-5381-5415
Fax: +81-3-5381-5416
<http://www.gigabyte.jp>

日本語

第4章 付録

4-1 ユニークなソフトウェアユーティリティ

(すべてのモデルがこれらのユニークなソフトウェアユーティリティをサポートしているわけではありません。お使いのマザーボードの機能をチェックしてください)。



U-PLUS D.P.S. (ユニバーサルプラスデュアルレパワーシステム)
U-Plusデュアルパワーシステム(U-Plus DPS)は、究極のシステム保護用に構築された画期的な8相電源回路です。さまざまな電流レベルと変化に耐えるように設計されたU-Plus D.P.S.は、CPUにきわめて丈夫で安定した電源回路を提供し、堅固なシステムの安定性を実現しています。これらの特性により、将来のIntel® プロセッサだけでなく、最新のLGA775 Intel® Pentium® 4プロセッサとの理想的な組み合わせとなっています。同様に、4つの青いLEDがU-Plus D.P.S.に組み込まれ、システムローディングをインテリジェントに示します。



M.I.T. (マザーボードインテリジェントトゥイーカー)
マザーボードインテリジェントトゥイーカー(M.I.T.)は、BIOS機能設定に比較的素早くそして簡単にアクセスし、変更します。GIGABYTE M.I.T.機能により、ユーザーはCPUシステムバス、メモリタイミングなどのシステム設定を変更したり、GigabyteのユニークなC.I.A. 2やM.I.B. 2機能を有効にするために、BIOSセットアップ内部で異なるモードに切り替える必要はありません。M.I.T.がすべてのプラットフォームのパフォーマンス設定を単一モードに統合することで、ユーザーはコンピュータシステムを希望するレベルに制御して強化できます。



C.I.A. 2 (CPUインテリジェントアクセラレータ2)
GIGABYTE CPUインテリジェントアクセラレータ2(C.I.A.2)は、CPUのコンピューティングパワーを自動的に調整してシステム性能を最大限に発揮するように設計されています。有効になっていると、プログラムは現在のCPUローディングを検出してCPUコンピューティング性能を自動的に加速し、プログラムを高速でスムーズに実行します。この性能が無効になっていると、CPUは初期ステータスに戻ります。



M.I.B. 2 (メモリインテリジェントブースター2)
オリジナルのM.I.B.に基づいた新しいメモリインテリジェントブースター2(M.I.B. 2)は、メモリ性能を最大限に高めバンド幅を最大10%高めるように、特別に設計されています。追加されたブランドのメモリモジュール情報を使用すると、ユーザーは推奨されたメモリモジュールリストから選択することでメモリ性能を最適化することができます。



S.O.S. (システムオーバークロックセーバー)
システムオーバークロック(S.O.S.)は、ユーザーによるシステムの機能過剰強化に起因するシステム起動エラーを取り除くユニークな機能です。GIGABYTE独自のS.O.S.機能があれば、PCのシャーシを開けてマザーボードの「Clear CMOS」ピンやバッテリをショートさせ、システムを出荷時設定に戻す必要はありません。その代わり、S.O.S.はオーバークロックしたシステム設定を出荷時設定に自動的にリセットし、より使いやすく信頼性のあるプラットフォームをユーザーに提供します。



ダウンロードセンター
ダウンロードセンターでは、システムの最新ドライバだけでなくBIOSをすばやくダウンロードしたり更新したりします。ダウンロードセンターはユーザーPCのシステムチェックを自動的に実行し、ユーザーに現在のシステム情報を提供し、ダウンロード用のオプションを搭載した新しいドライバの詳細なリストを表示します。



C.O.M. (企業オンライン管理)
C.O.M.はWebベースのシステム管理ツールで、CPU、メモリ、グラフィックスカードなどのシステムのハードウェア情報をインターネット経由で監視したり制御したりして、企業のITエンジニアが最新ドライバとBIOSを提供するなど、企業コンピュータを容易に維持できるようにしています。

4-1-1 Xpress Recoveryの概要



Xpress Recoveryとは?

Xpress Recoveryは、OSパーティションをバックアップし回復するために使用されるユーティリティです。ハードドライブが正しく作動しない場合、ユーザーはドライバをそのオリジナルの状態に回復できます。



1. FAT16、FAT32、NTFS形式をサポート
2. IDE1マスターに接続する必要があります
3. 1つのOSのみインストール可能
4. HPAをサポートするIDEハードディスクで使用する必要があります
5. 最初のパーティションは起動パーティションとして設定する必要があります。起動パーティションをバックアップするとき、そのサイズを変更しないでください。
6. Xpress Recoveryは、起動マネージャをNTFS形式に戻すためにGhostを使用するときに推奨いたします。

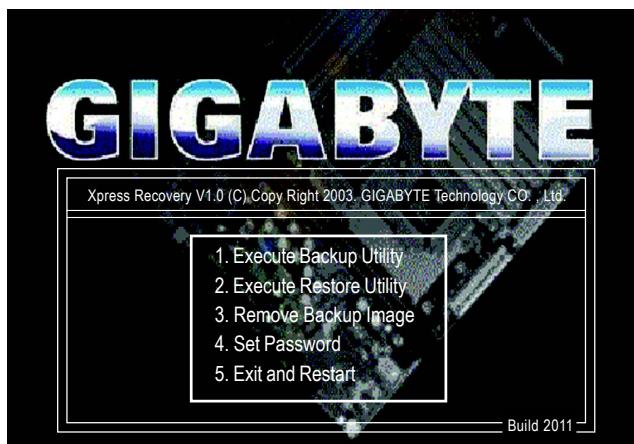
Xpress Recoveryの使用法

1. CD-ROMから起動します(BMPモード)

BIOSメニューに入って、「Advanced BIOS」機能を選択し、CD-ROMから起動に設定します。付属のドライバCDをCDドライブに挿入し、BIOSメニューを保存して終了します。コンピュータが再起動したら、画面の左下に「Boot from CD」というメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたら、どれかのキーを押してXpress Recoveryに入ります。このステップを完了すると、次にXpress Recoveryにアクセスするとき、コンピュータの電源を入れている間にF9キーを押している場合と同じように機能します。

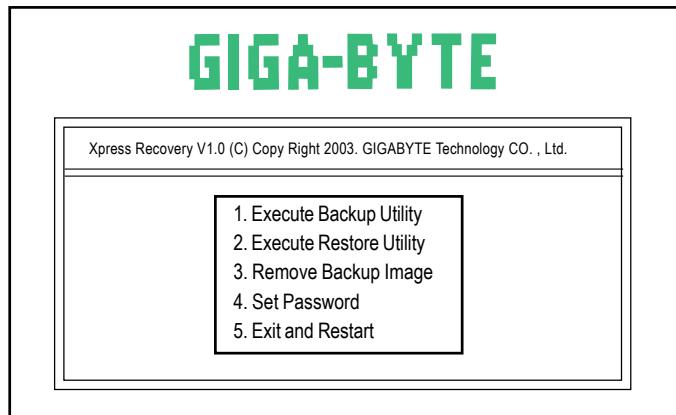


CDから起動:





2. コンピュータの電源をオンにしている間にF9を押します。(テキストモード)
コンピュータの電源をオンにしている間にF9を押します。



1. CD-ROM から起動してすでに Xpress Recovery に入っている場合、F9キーを押すことでそれ以後は Xpress Recovery に入ることができます。
2. ドライブの読み取り/書き込み速度と同様、システムの記憶容量はバックアップ速度に影響を与えます。
3. OS と必要なすべてのドライバやソフトウェアのインストールが完了したら、直ちに Xpress Recovery をインストールすることをお勧めします。

1. Execute Backup Utility:

- ↗ **Bを押すとシステムをバックアップし、Escを押すと終了します。**
バックアップユーティリティはシステムを自動的にスキャンし、ハードドライブにバックアップ画像としてデータをバックアップします。



コンピュータの電源をオンにしている間にF9キーを押しても、すべてのシステムがXpress Recoveryにアクセスできるとは限りません。アクセスできない場合、CD-ROMから起動する方式を使用してXpress Recoveryに入ってください。

2. Execute Restore Utility:

- ↗ **このプログラムは、システムを出荷時設定に戻します。**
Rを押すとシステムは出荷時設定に復元され、Escを押すと終了します。
バックアップ画像をオリジナルの状態に復元します。

3. Remove Backup Image:

- ↗ **バックアップ画像を削除します。よろしいですか? (Y/N)**
バックアップ画像を削除します。

4. Set Password:

- ↗ **4-16文字の長さのパスワード (a-z または 0-9) を入力するか、Escを押して終了します。**
パスワードを設定してXpress Recoveryに入ると、ハードディスクのデータを保護できます。いったんパスワードを設定すると、次にシステムを起動するときだけでなく、Xpress Recoveryに入るとときにもパスワードを要求されます。パスワード入力の必要性を取り除きたい場合、「New Password / Confirm Password」の下で「Set Password」を選択し、何も入力されていないことを確認してから「Enter」を押すとパスワードの要求が取り除かれます。

5. Exit and Restart:

コンピュータを終了して、再起動します。



4-1-2 フラッシュBIOS方式の概要



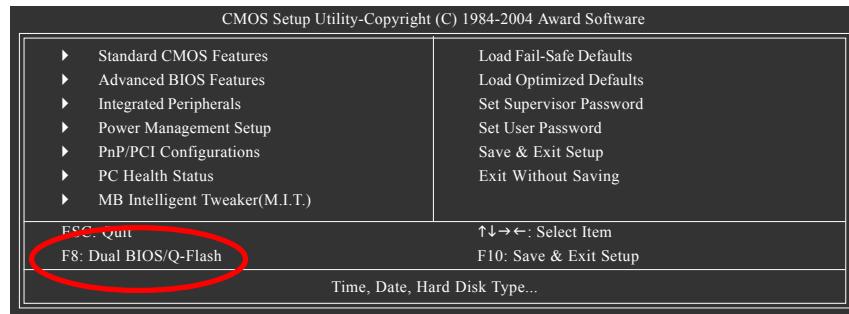
A. Dual BIOSテクノロジとは

Ddual BIOS では、マザーボード上にメインBIOSとバックアップBIOSという2つのシステムBIOS(ROM)が搭載されています。

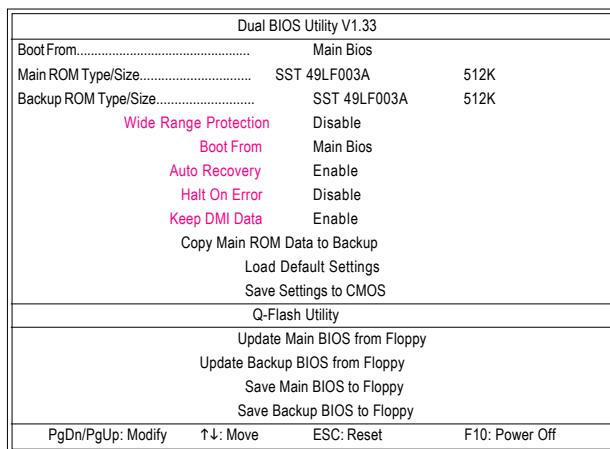
通常は、メインBIOSを利用してシステムは動作します。もし、メインボードBIOSが破壊されたりして利用できないとき、システムの電源がオンになっている間に、バックアップBIOSを利用してシステムは動作します。これは、BIOSに何も起らなかったかのように、PCが安定して動作できることを意味します。

B. デュアルBIOSとQ-Flashユーティリティの使い方

- コンピュータの電源をオンにし、パワーオンセルフテスト(POST)が開始されたら直ちにキーを押し、Award BIOS CMOS SETUPを起動します。そして、<F8>を押してFlashユーティリティを起動します。



- Dual BIOS/Q-Flashプログラミングユーティリティ



c. デュアルBIOSアイテム説明:

Wide Range Protection: Disable (Disable), Enable

ステータス1:

電源オンの後OS読み込み前に、メインBIOSに問題(例: Update ESCDエラーやチェックサムエラー、リセットなど)が発生したとき、本アイテムが「Enable」に設定されている場合には自動的にバックアップBIOSから起動します。

ステータス2:

SCSIカードやLANカードなどの周辺装置カードのROM BIOSが、ユーザーの設定変更後システム再起動を要求する信号を出したとき、バックアップBIOSから起動しません。

Boot From: Main BIOS (Default), Backup BIOS

ステータス1:

起動するBIOSをメインBIOS/バックアップBIOSから選択できます。

ステータス2:

どちらかのBIOSが利用できないとき、本アイテム「boot From:Main BIOS (既定値)」は淡色表示になり変更できません。

Auto Recovery: Enable (Default), Disable

2つのBIOSのどちらかにチェックサムエラーが生じたとき、エラーのないBIOSが自動的にエラーの生じたBIOSを回復します。

(BIOS設定: 電源管理のセットアップでACPIサスペンドの種類がサスペンドからRAMのとき本項目は自動的にEnable: 有効になります)。

(BIOS設定に入るには、起動時に「Del」キーを押します)。

Halt On Error: Disable (Default), Enable

BIOSにチェックサムエラーが生じたとき、またはメインBIOSにワイドレンジ保護エラーが生じたとき、停止エラーがEnable: 使用可能に設定されている場合に、システム起動時にメッセージが表示され、ユーザーの指示を待つ状態で一時停止します。

自動回復がDisable: 使用不可のとき、<他のキーを押すと続いて動作>と表示されます。

自動回復がEnable: 使用可能のとき、<他のキーを押すと自動回復>と表示されます。

Keep DMI Data: Enable (Default), Disable

使用可能: 新BIOS書き込みでDMIデータは置き換えられません(推奨)。

使用不可: DMIデータは新BIOS書き込みで置き換えられます。

Copy Main ROM Data to Backup

(バックアップROMから起動のとき、バックアップROMデータからメインへのコピーに変更されます)。

自動回復メッセージ:

BIOS Recovery: Main to Backup

メインBIOSは正常動作し、バックアップBIOSを自動回復できます。

BIOS Recovery: Backup to Main

バックアップBIOSは正常動作し、メインBIOSを自動修復できます。

(この自動回復ユーティリティはシステムにより自動設定され、ユーザーにより変更することはできません)。

Load Default Settings

デュアルBIOS既定値を読み込みます。

Save Settings to CMOS

修正した設定を保存します。



は、DOS や Windows のユーティリティをいっさい使わずに BIOS をフラッシュします。Q-Flash™ は BIOS に含まれているため、複雑な指示やオペレーティングシステムに翻弄されることはありません。

CAUTION BIOS の更新には危険が伴うため、細心の注意を払ってください。BIOS を更新する際に間違った操作のためにシステムが破損しても、Gigabyte Technology Co., Ltd では責任を負うことはありません。

始める前に:

Q-Flash™ ユーティリティを搭載した BIOS の更新を開始する前に、まず以下のステップに従ってください。

1. Gigabyte の Web サイトから、マザーボード用の最新 BIOS をダウンロードします。
2. ダウンロードした BIOS ファイルを解凍し、BIOS ファイル (Fxx というモデル名を持つファイル。例えば、8KNXPU.Fba) をフロッピーディスクに保存します。
3. PC を起動し、**Del** を押して BIOS メニューに入ります。

以下の BIOS アップグレードガイドは、2つの部分に分けられます。

マザーボードにデュアル BIOS デュアルが搭載されている場合、**パート1** を参照してください。

マザーボードにシングル BIOS デュアルが搭載されている場合、**パート2** を参照してください。

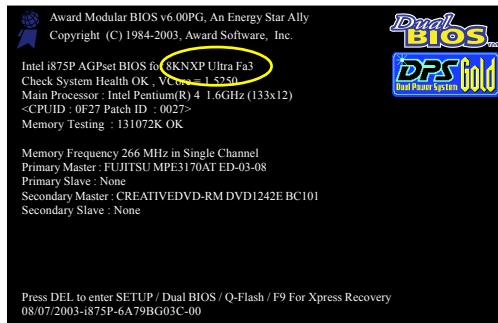
パート1:

デュアル BIOS マザーボードの Q-Flash™ ユーティリティで BIOS を更新する。

一部の Gigabyte マザーボードには、デュアル BIOS が搭載されています。Q-Flash と Dual BIOS をサポートするマザーボードの BIOS メニューで、Q-Flash ユーティリティと Dual BIOS ユーティリティは同じ画面に結合されます。本項では、Q-Flash ユーティリティの使用方法のみを説明します。

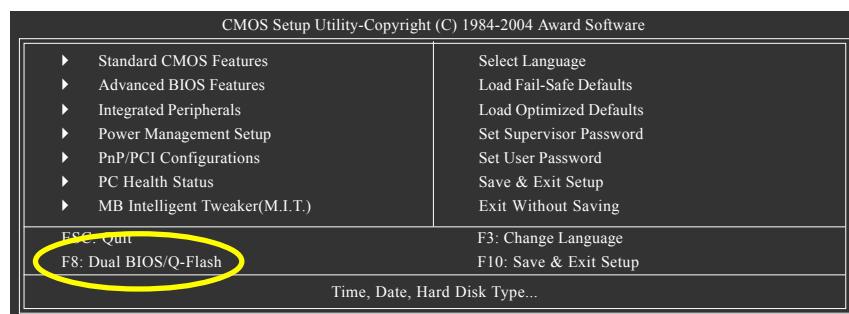
以下の項では、GA-8KNXP Ultra を例に取って、BIOS を古いバージョンから新しいバージョンにフラッシュする方法を示します。例えば、Fa3 から Fba に。

更新前の BIOS ファイルは Fa3 です。



Q-Flash™ユーティリティに入る:

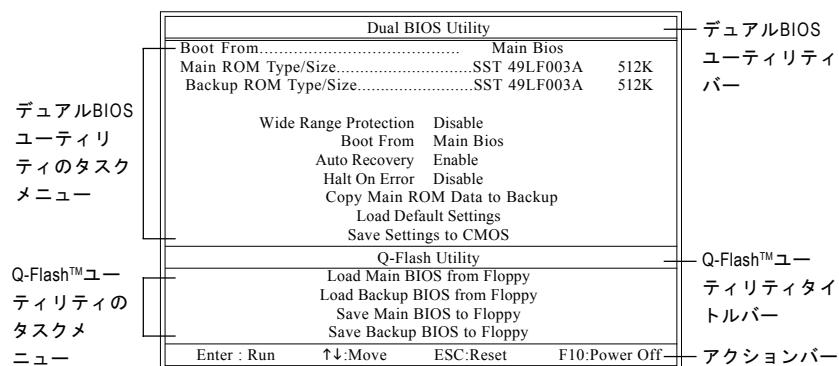
ステップ1: Q-Flashユーティリティを使用するには、起動画面でDelを押してBIOSメニューに入れる必要があります。



ステップ2: キーボードでF8ボタンを次にYボタンを押して、デュアルBIOS/Q-Flashユーティリティに入ります。

Q-Flash™ / Dual BIOSユーティリティ画面を調べる

Q-Flash/Dual BIOSユーティリティ画面は、次の主要なコンポーネントから構成されています。



デュアルBIOSユーティリティのタスクメニュー:

BIOS ROMタイプに関する情報を示す、8つのタスクと2つのアイテムの名前を含みます。タスクをブロックしキーボードのEnterキーを押すと、タスクの実行が有効になります。

Q-Flashユーティリティのタスクメニュー:

4つのタスクの名前を含みます。タスクをブロックしキーボードのEnterキーを押すと、タスクの実行が有効になります。

アクションバー:

Q-Flash/デュアルBIOSユーティリティを操作するために必用な4つのアクション名を含みます。キーボードに記載されたボタンを押してこれらのアクションを実行します。



Q-Flash™ユーティリティを使用する:

本項では、Q-Flashユーティリティを使用してBIOSを更新する方法を示します。上の「Before you begin」で説明したように、マザーボード用のBIOSファイルを含むフロッピーディスクを準備し、コンピュータに挿入する必要があります。システムにフロッピーディスクをすでに挿入してQ-Flashユーティリティを起動している場合、以下のステップに従ってBIOSをフラッシュしてください。

ステップ:

1. キーボードの矢印ボタンを押し明るいバーをQ-Flashメニューの「Load Main BIOS from Floppy」アイテムに移動し、Enterボタンを押します。
ポップスがポップアップ表示され、フロッピーディスクにダウンロードしておいたBIOSファイルを示します。



バックアップのために現在のBIOSを保存したい場合、「Save Main BIOS to Floppy」

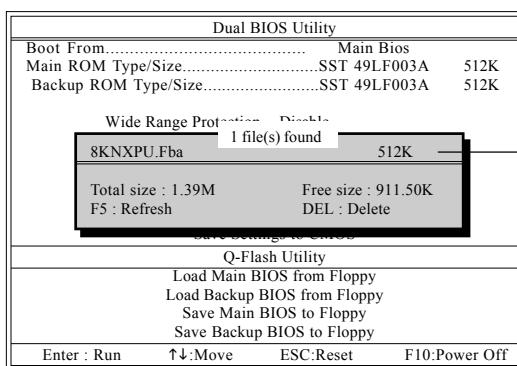
アイテムでステップ1を開始できます。

2. フラッシュしたいBIOSファイルに移動し、Enterを押します。

この例で、フロッピーディスクには1つのBIOSファイルのみしかダウンロードしないため、1つのBIOSファイル、8KNXPU.Fbaだけが表示されています。

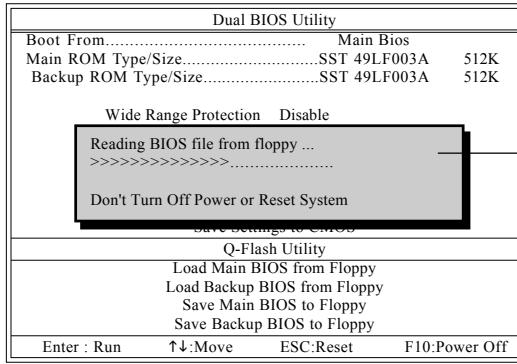


マザーボード用の正しいBIOSファイルを使用していることを再度確認してください。



フロッピーディスクのBIOS
ファイル。

Enter を押すと、フロッピーディスクから BIOS ファイルを読み込むための進捗状況が表示されます。



この段階でコンピュータの電源をオフにしたり、リセットしないでください。

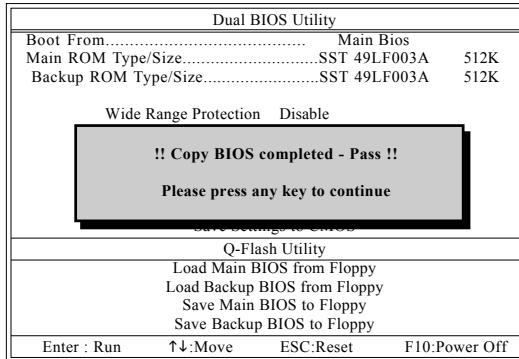
BIOSファイルを読み込むと、「Are you sure to update BIOS?」と尋ねる確認ダイアログボックスが表示されます。

3. BIOSの更新を決めたら、キーボードのYボタンを押します。
BIOSの更新が始まります。BIOS更新の進捗状況が同時に表示されます。



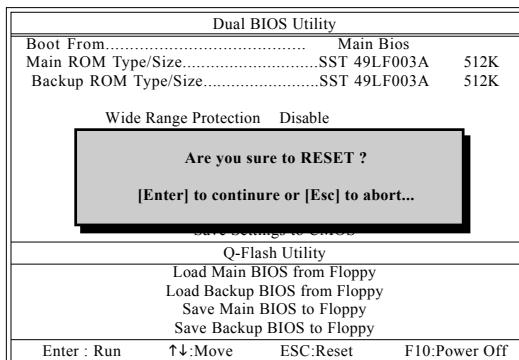
BIOSの更新が始まったらフロッピーディスクを取り出さないでください。

4. BIOSの更新手順が完了した後、どれかのキーを押すとQ-Flashメニューに戻ります。



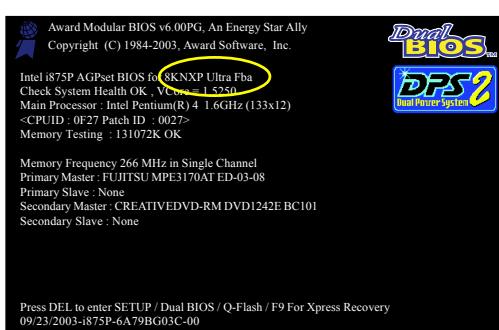
ステップ1から4を繰り返して、バックアップBIOSをフラッシュすることもできます。

5. Escを次にYボタンを押してQ-Flashユーティリティを終了します。Q-Flashを終了すると、コンピュータが自動的に再起動します。



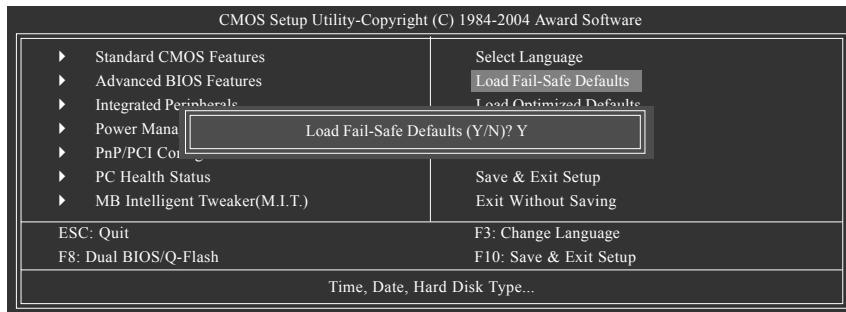
システムが再起動した後、起動画面のBIOSバージョンはフラッシュしたバージョンになります。

更新後、BIOS
ファイルはFba
になります。



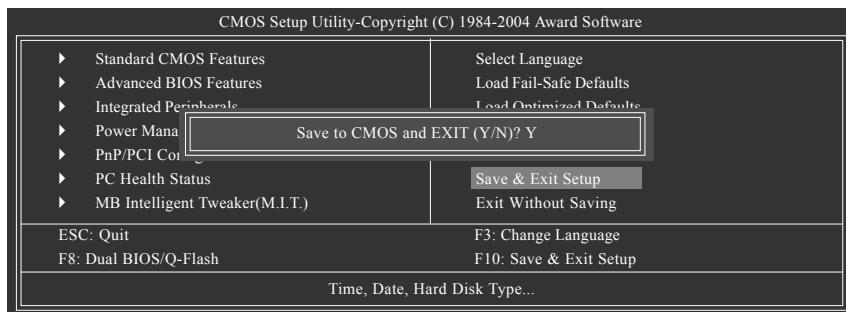


6. システムが再起動した後、**Del**を押すとBIOSメニューに入ります。BIOSメニューに入ったら、**Load Fail-Safe Defaults**アイテムに移動し、**Enter**を押してBIOSのフェールセーフ既定値をロードします。通常、BIOSの更新が完了するとシステムはすべてのデバイスを再検出します。従って、BIOSの初期設定値を再ロードすることを強くお勧めします。



キーボードのYを押して初期設定値をロードします。

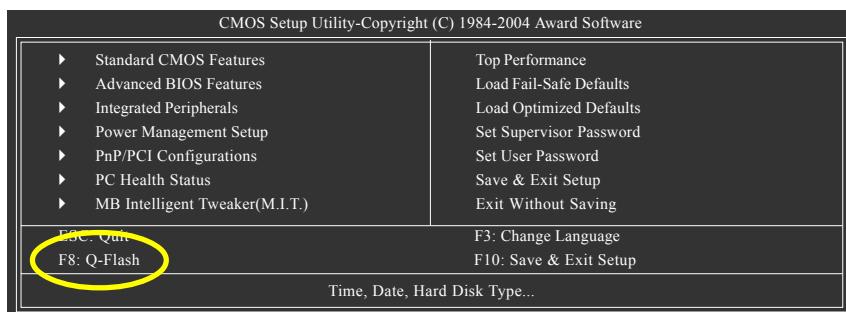
7. **Save & Exit Setup**アイテムを選択し、設定をCMOSに保存し、BIOSメニューを終了します。
BIOSメニューを終了すると、システムは再起動します。手順は完了しました。



キーボードのYを押し、保存して終了します。

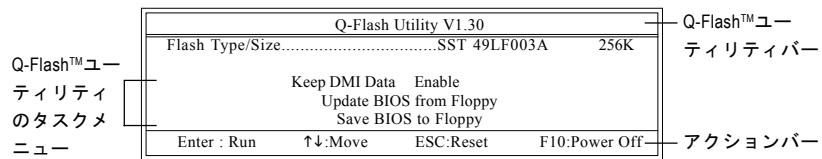
パート2:

シングルBIOSマザーボードのQ-Flash™ユーティリティでBIOSを更新する。
本項では、シングルBIOSマザーボードのユーザーに、Q-Flash™ユーティリティを使用してBIOSを更新する方法を示します。



Q-Flash™ユーティリティ画面を調べる

Q-Flash BIOSユーティリティ画面は、次の主要なコンポーネントから構成されています。



Q-Flashユーティリティのタスクメニュー:

3つのタスクの名前を含みます。タスクをロックしキーボードのEnterキーを押すと、タスクの実行が有効になります。

アクションバー:

Q-Flashユーティリティを操作するために必用な4つのアクション名を含みます。キーボードに記載されたボタンを押してこれらのアクションを実行します。

Q-Flash™ユーティリティを使用する:

本項では、Q-Flashユーティリティを使用してBIOSを更新する方法を示します。上の「Before you begin」で説明したように、マザーボード用のBIOSファイルを含むフロッピーディスクを準備し、コンピュータに挿入する必要があります。システムにフロッピーディスクをすでに挿入してQ-Flashユーティリティを起動している場合、以下のステップに従ってBIOSをフラッシュしてください。

ステップ:

1. キーボードの矢印ボタンを押し明るいバーをQ-Flashメニューの「Update BIOS from Floppy」アイテムに移動し、Enterボタンを押します。
ボックスがポップアップ表示され、フロッピーディスクにダウンロードしておいたBIOSファイルを示します。



バックアップのために現在のBIOSを保存したい場合、「Save BIOS to Floppy」アイテムでステップ1を開始できます。

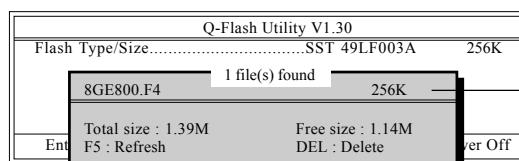
2. フラッシュしたいBIOSファイルに移動し、Enterを押します。

この例で、フロッピーディスクには1つのBIOSファイルのみしかダウンロードしないため、1つのBIOSファイル、8GE800.F4だけが表示されています。

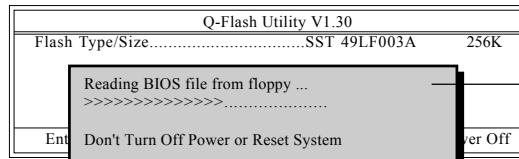


マザーボード用の正しいBIOSファイルを使用していることを再度確認してください。

CAUTION



フロッピーディスクのBIOSファイル。



この段階でコンピュータの電源をオフにしたり、リセットしないでください。

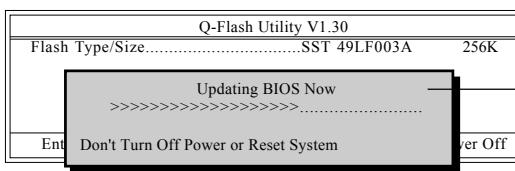
BIOSファイルを読み込むと、「Are you sure to update BIOS?」と尋ねる確認ダイアログボックスが表示されます。



BIOSの更新が始まったらフロッピーディスクを取り出さないでください。

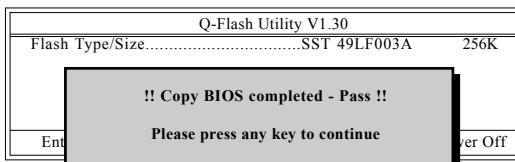


3. BIOSの更新を決めたら、キーボードのYボタンを押します。
BIOSの更新が始まります。 BIOS更新の進捗状況が同時に表示されます。

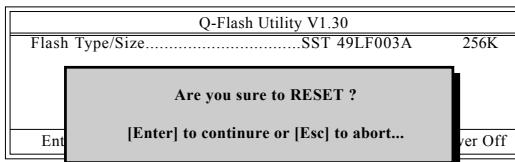


CAUTION
この段階でコンピュータの電源をオフにしたり、リセットしないでください。

4. BIOSの更新手順が完了した後、どれかのキーを押すとQ-Flashメニューに戻ります。

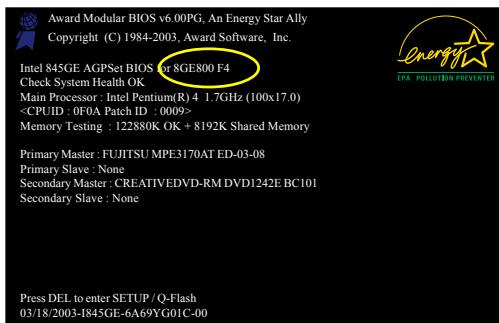


5. Escを次にYボタンを押してQ-Flashユーティリティを終了します。 Q-Flashを終了すると、コンピュータが自動的に再起動します。



システムが再起動した後、起動画面の BIOS バージョンはフラッシュしたバージョンになります。

更新後、 BIOS
ファイルはF4
になります



6. システムが再起動した後、Delを押すとBIOSメニューに入り、「Load BIOS Fail-Safe Defaults」します。 BIOS フェールセーフ既定値をロードする方法については、パート1のステップ6から7を参照してください。

お疲れ様でした!! BIOSは正常に更新されました!!



方式2: @BIOS™ユーティリティ
DOS起動ディスクがない場合には、新しい@BIOSユーティリティを利用するをお勧めします。@BIOSはWindowsの下でBIOSを更新します。目的の@BIOSサーバーを選択してBIOSの最新バージョンをダウンロードしてください。

図1. @BIOSユーティリティをインストールします

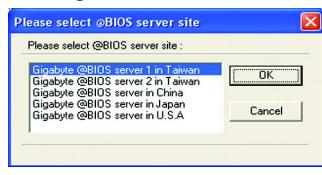


図3. @BIOSユーティリティ

図2. インストールを完了し@BIOSを実行します



図4. 目的の@BIOSサーバーを選択します



1. 方式とステップ:

I. インターネットでBIOSをアップデート:

- 「Internet Update」アイコンをクリックします。
- 「Update New BIOS」アイコンをクリックします。
- @BIOS™サーバーを選択します。
- 使用するマザーボードのモデル名を正確に選択します。
- 自動的にBIOSがダウンロードされ、アップデートされます。

II. インターネットを使用せずにBIOSをアップデート:

- 「Internet Update」アイコンをクリックしません。
- 「Update New BIOS」をクリックします。
- 古いファイルを開いている間に、ダイアログボックスで「All Files」を選択してください。
- BIOS解凍ファイルをインターネットなどから探し、ダウンロードしてください(例: 8I9XG.F1)。
- 下記の指示に従い、アップデートプロセスを完了します。



III. BIOSの保存:

最初の方で、「Save Current BIOS」アイコンがダイアログボックスに表示されます。このアイコンは、現在のBIOSバージョンを保存することを意味します。

IV. サポートするマザーボードとフラッシュROMのチェック:

最初の方で、「About this program」アイコンがダイアログボックスに表示されます。サポートするマザーボードの種類とフラッシュROMのブランドについての情報を得ることができます。

2. 注:

- I. 方式Iで、選択する複数のマザーボードのモデル名が表示されるときは、マザーボードのモデル名を再度確認してください。間違って選択すると、システムが起動しません。
- II. 方式IIで、BIOS解凍内のマザーボードのモデル名がご使用のマザーボードのモデル名と合致しているかどうかを確認してください。合致していないと、システムが起動しません。
- III. 方式Iで、BIOSファイルが@BIOS™サーバー内に見つからないときは、GigabyteのWebサイトからダウンロードし、方式IIに従ってアップデートしてください。
- IV. 更新中に中断するとシステムが起動しなくなります。

4-1-3 シリアルATA BIOS設定ユーティリティの概要

RAIDレベル

RAID (Redundant Array of Independent Disks)は2台のハードディスクドライブを1つの論理装置に結合する方式です。アレイの利点は、優れたパフォーマンスやデータフォールトレランスを提供することです。フォールトレランスはデータ冗長操作を通して達成され、1つのドライブが障害を起こしても、データのミラーされたコピーを他のドライブで見ることができます。これにより、オペレーティングシステムがエラーを発生したりハングアップした場合に、データ損失を防ぐことができます。アレイの個々のディスクドライブはメンバーと呼ばれます。各メンバーの構成情報は予備のセクタに記録され、ドライブをメンバーとして識別します。形成されたディスクアレイのすべてのディスクメンバーは、オペレーティングシステムに対する単一の物理ドライブとして認識されます。

ハードディスクドライブは、いくつかの異なる方式を通して結合できます。異なる方式は異なるRAIDレベルとして参照されます。異なるRAIDレベルは異なるパフォーマンスレベル、セキュリティレベル、実行コストを表します。Intel®ICH6RチップセットがサポートするRAIDレベルはRAID 0とRAID 1です。

RAID 0(ストライピング)

RAID 0は複数のドライブ間でインターリーブされたデータのセクタの読み込みと書き込みを行います。どれかのディスクメンバーが故障すると、アレイ全体に影響を与えます。ディスクアレイのデータ容量はドライブメンバーの数に等しく、もっとも小さいメンバーの容量の倍数です。ストライピングブロックサイズは4KBから64KBまで設定できます。RAID 0はフォールトレランスをサポートしません。

RAID 1(ミラーリング)

RAID 1は1組のドライブに重複データを書き込み、両方のセットのデータを並行して読み込みます。ミラーされたドライブのどれかが機械的障害を発生したり応答しない場合、残りのドライブが正常に動作を続けます。冗長により、アレイのドライブ容量は最小ドライブの容量になります。RAID 1セットアップの元で、予備ドライブと呼ばれる特別なドライブを接続できます。このドライブをアクティブにすると、障害を発生したドライブに取って代わりミラーされたアレイの一部となります。フォールトレランスにより、どれかのRAID 1が故障しても、アレイに他の動作するドライブがある限り、データアクセスは影響を受けません。



以下のステップに従って、完全なRAIDアレイを構築してください:

- 1) RAID構成用にハードドライブを準備します。
注: 最高のパフォーマンスを達成するために、使用するハードドライブは同じメーカーおよび記憶容量のものにすることをお勧めします。
- 2) ハードドライブのコネクタをマザーボードの適切な場所、例えば、IDE、SCSI、SATAに取り付けてください。
- 3) マザーボードBIOSに入り、RAIDセットアップを探します(統合周辺装置の項を参照してください)。
- 4) BIOSでRAIDセットアップに入り、RAIDタイプを選択します(例えば、Ctrl+Iを入力するとIntel RAIDが選択され、Ctrl+Sを入力するとSilicon Imageが選択されます)。
- 5) ドライバのインストールを完了します。
- 6) RAIDユーティリティのインストールを完了します。

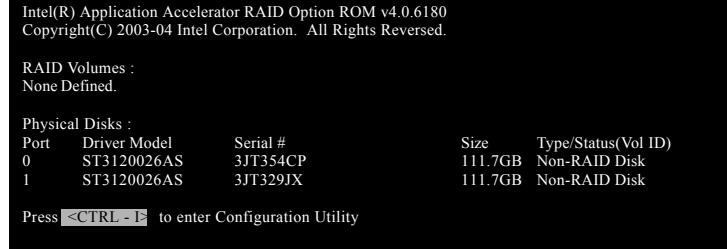
ステップ4と5の詳細を以下に示します。

Intel RAID BIOSを構成する

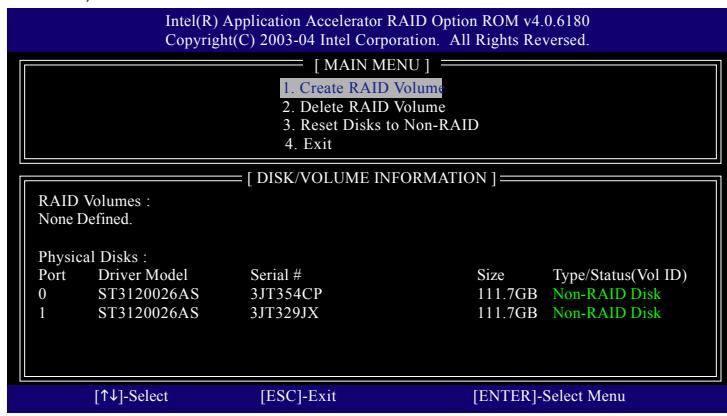
Intel RAID BIOSセットアップは、RAIDアレイタイプおよびアレイの部分を構成するハードドライブを選択します。

RAID BIOSセットアップに入る

1. コンピュータを再起動した後、RAIDソフトウェアがCtrl+Iを押すように促すメッセージが表示されるのを待ちます。RAIDプロンプトがOSをロードする前に、システムPOSTの一部および起動プロセスとして表示されます。ウィンドウが消える前の数秒間の間にCtrl+Iを押してください。

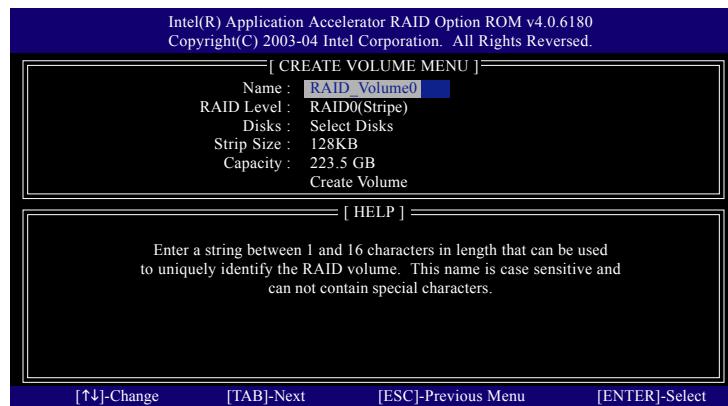


Ctrl + Iを押します。Intel RAIDユーティリティ - Create RAID Volumeウィンドウが表示されます(下の図を参照)。



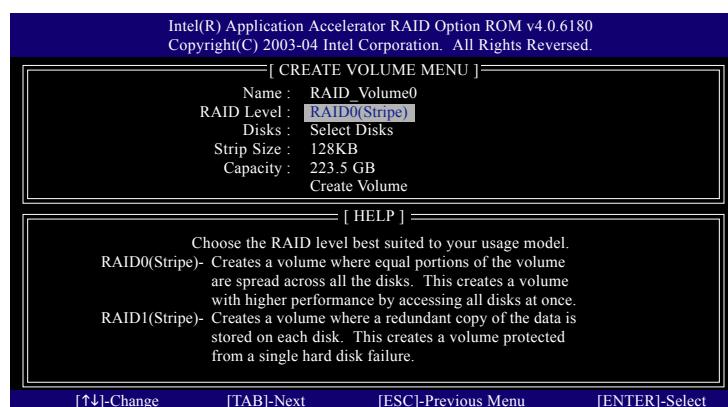
Create RAID Volume

Create RAID Volumeの下でEnterを押し、RAIDをセットアップします。



Create Volume Menuに入った後、Name アイテムの下で1~16文字(特殊文字を使用することはできません)でディスク名を設定できます。

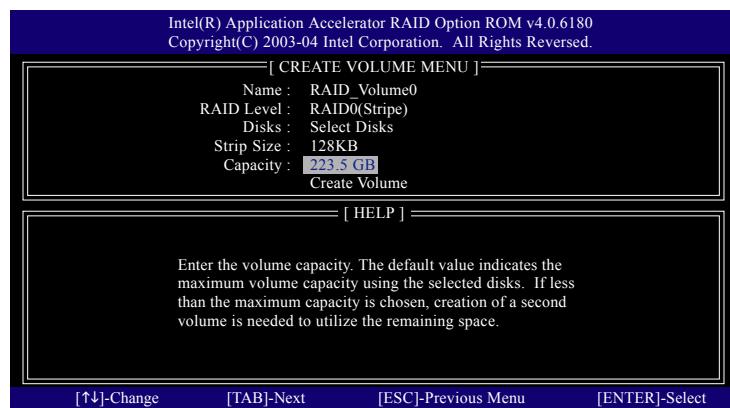
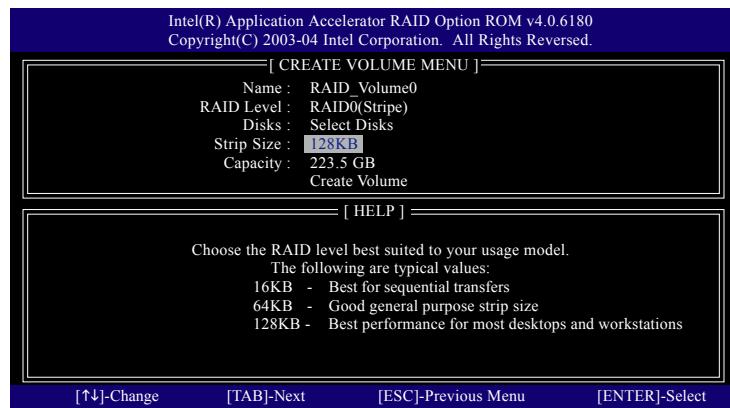
ディスク名を設定した後、Enterを押して RAID Level を選択します。



RAID0(ストライプ)とRAID1(ミラー)の2つのRAIDレベルがあります。RAIDレベルを選択した後、Enterを押して Strip Size を選択します。

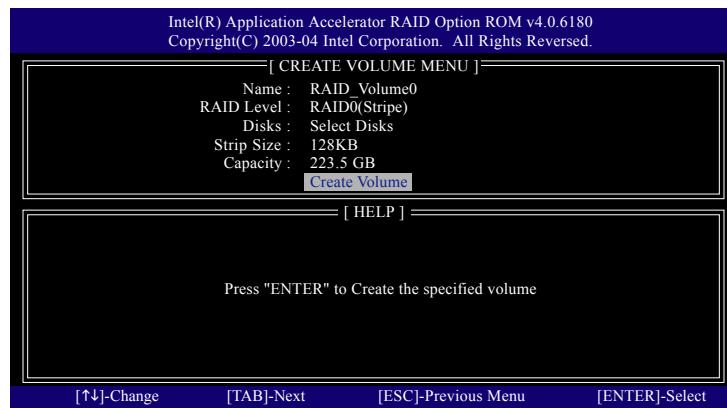


KBはストライプサイズの単位です。この単位でディスクのブロックサイズを設定できます。
ディスクのブロックサイズは4KBから128KBまで設定できます。ディスクのブロックサイズを設定した後、Enterを押してディスク Capacity を設定します。

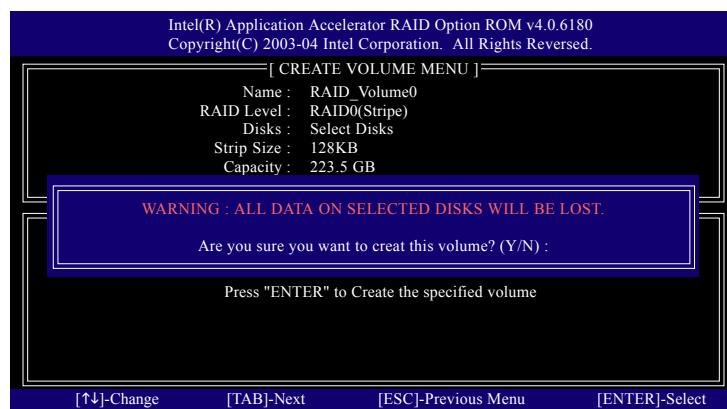


ディスク容量を設定した後、Enterを押して Create Volume に入ります。

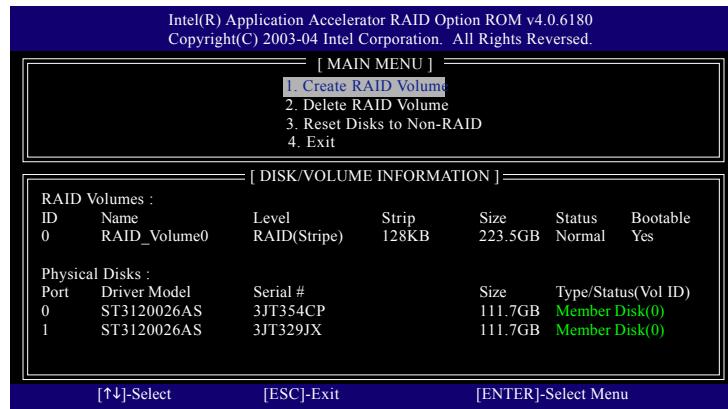
Create Volume アイテムの下で、Enterを押します。



アラートバーが表示されて、選択したディスクのすべてのデータが失われますという警告が出されます。Yを押して、RAIDのセットアップを完了してください。

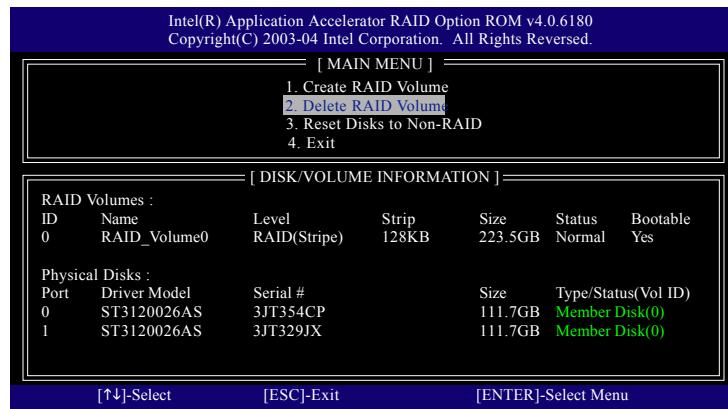


完了すると、RAIDレベル、ディスクブロックサイズ、ディスク名、ディスク容量など、RAIDに関する詳細が表示されます。



Delete RAID Volume

RAIDポリュームを削除したい場合、Delete RAID Volumeオプションを選択してください。Enterキーを押し、画面の指示に従ってください。



RAID ドライバをインストールする

Windowsオペレーティングシステム(Win NT、WinXP、Win2000)の場合、IDE RAID/SCSI/シリアルATAを機能させるには、まずフロッピーディスクにドライバを転送する必要があります。以下 のステップに従って、フロッピーディスクへのドライバの転送を完了してください:

- 1) 付属のドライバCDをハードディスクドライブ、例えばDrive Dに挿入してください。
- 2) 空のフォーマット済みフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- 3) 「コマンドプロンプト」またはDOSから、「D:\BootDrv\menu.exe」と入力して下さい(図1を参照)。
- 4) すべてのチップセットの情報は、画面に一覧表示されています(図2を参照)。正しいチップセットモデルを選択してください。

図1

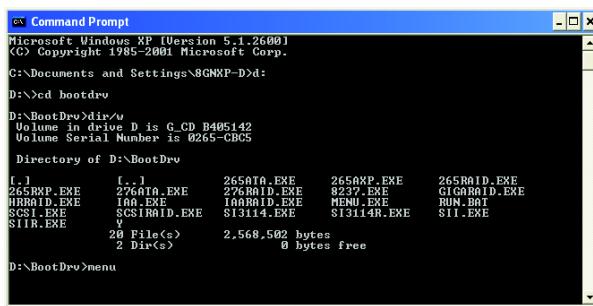
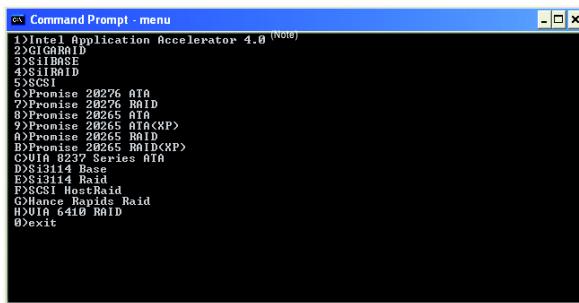


図2



システムはこのドライバファイルを自動的に圧縮し、フロッピーディスクに転送します。

ステップを完了したら、Windows CDから起動し RAID ドライバをインストールします。シリアルATAコントローラで HDD から Windows 2000 または Windows XP をインストールするとき、Win2000 またはXPの起動時にF6を押し、フロッピーディスクによりシリアルATAコントローラドライバをインストールします。オンスクリーンの指示に従って、インストールを完了してください。
(RAID アレイに新しいハードドライブを追加するたびに、そのドライバに対して Windows の元で RAID ドライバを一度インストールする必要があります。その後は、ドライバをインストールする必要はありません)。

注: メニューリストで、Intel アプリケーションアクセラレータ 4.0 は Intel ICH6R チップセットです。



4-1-4 2- / 4- / 6- / 8チャネルオーディオ機能の概要

このマザーボードは6つのオーディオコネクタを提供します。オーディオソフトウェアを選択することにより、2-/4-/6-/8チャネルオーディオ機能を使用することができます。

オーディオコネクタの概要:

CD-ROM/DVD-ROM、ウォークマンまたはその他のオーディオ入力をライン入力に接続できます。

前面チャネルまたはイヤホーンはライン出力(前面スピーカー出力)に接続できます。

マイクをマイク入力に接続します。

背面チャネルを背面スピーカー出力に接続します。

センター/サブウーファチャネルをセンター/サブウーファスピーカー出力に接続します。

側面チャネルを側面スピーカー出力に接続しま

Windows 98/ 2000/ ME/ XPへのオーディオソフトウェアのインストールは極めて簡単です。次のステップに従って、機能をインストールしてください。(次の図はWindows XPで表示されます)

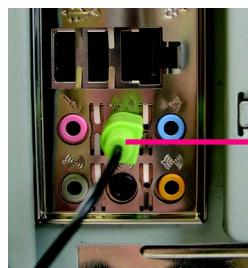


ステレオスピーカーの接続と設定:

ステレオ出力を適用する場合、最高のサウンド効果を得るにはアンプ付きスピーカーの使用を推奨します。

ステップ1:

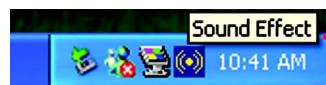
スピーカーまたはイヤホーンを「Line Out」に接続します。



ライン出力

ステップ2:

オーディオドライバのインストール後、タスクバーの右下にSound Effect (Speaker icon) アイコンが表示されます。このアイコンをクリックして、機能を選択してください。

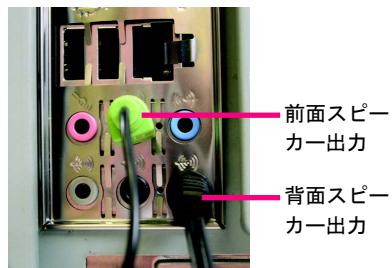


ステップ3:
「Speaker Configuration」をクリックし、左選択バーをクリックして「2CH Speaker」を選択し、2チャネルオーディオ構成を完了します。

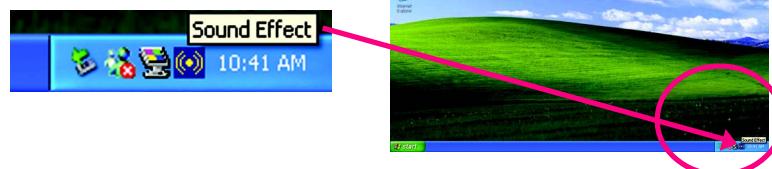


4チャネルオーディオセットアップ

ステップ1:
前面チャネルを「Front Speaker Out」に、背面スピーカーを「Rear Speaker Out」に接続します。



ステップ2:
オーディオドライバのインストール後、タスクバーの右下にSound Effect (音) アイコンが表示されます。このアイコンをクリックして、機能を選択してください。



ステップ3:
「Speaker Configuration」をクリックし、左選択バーをクリックして「4CH Speaker」を選択し、4チャネルオーディオ構成を完了します。

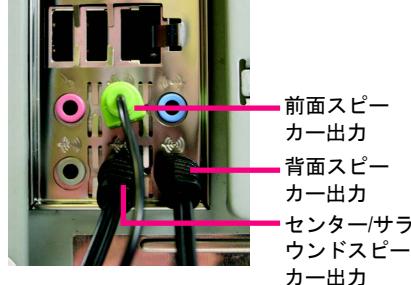




6チャネルオーディオセットアップ

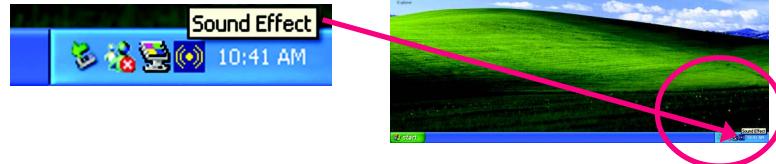
ステップ1:

前面チャネルを「Front Speaker Out」に、背面チャネルを「Rear Speaker Out」に、センター/サブウーファチャネルを「Center/Subwoofer Speaker Out」に接続します。



ステップ2:

オーディオドライバのインストール後、タスクバーの右下にSound Effect (Speaker icon) アイコンが表示されます。このアイコンをクリックして、機能を選択してください。



ステップ3:

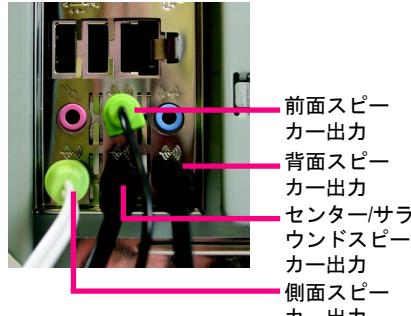
「Speaker Configuration」をクリックし、左選択バーをクリックして「6CH Speaker」を選択し、6チャネルオーディオ構成を完了します。



8チャネルオーディオセットアップ

ステップ1:

前面チャネルを「Front Speaker Out」に、背面チャネルを「Rear Speaker Out」に、センター/サブウーファチャネルを「Center/Subwoofer Speaker Out」に、側面チャネルを「Side Speaker Out」に接続します。



ステップ2:

オーディオドライバのインストール後、タスクバーの右下にSound Effect アイコンが表示されます。このアイコンをクリックして、機能を選択してください。



ステップ3:

「Speaker Configuration」をクリックし、左選択バーをクリックして「8CH Speaker」を選択し、8チャネルオーディオ構成を完了します。



Sound Effect Configuration:

サウンド効果メニューで、希望するサウンドオプション設定を調整できます。



Jack-Sensingの概要

Jack-Sensingは、オーディオコネクタのエラー検出機能を提供します。



Windows 98/ 98SE/ 2000/ MEに対してJack-Sensingサポートを有効にする前に、Jack-Sensing以降のバージョンをインストールしてください。

オーディオデバイスのインストール後、リストの画面がオーディオソフトウェアからポップアップ表示され、インストールしたデバイスの種類を選択することができます。



間違ったジャックにデバイスを接続した場合、Jack-Sensing機能はお使いのデバイス用の正しいジャックを示します。矢印の指示に従えば、正しいジャックにデバイスを再接続できます。



オーディオデバイスの正しいアイコンは、再び取り付けた後に表示されます。



4-2 トラブルシューティング

下記はよくある質問集です。特定のマザーボードのモデルに対しての質問につきましては、<http://tw.giga-byte.com/faq/faq.htm>のホームページをご参照ください。

Q1: BIOSのアップデートを行った後に、いくつかのオプションが見えなくなってしまいました。なぜでしょうか?

A: いくつかのアドバンスドオプションは新しいBIOSの中に隠れています。CtrlキーとF1キーを押し、BIOS画面に入るとそのオプションを見ることができます。

Q2:なぜコンピュータの電源を切った後でも、キーボードと光学マウスのライトが点灯しているのですか?

A: いくつかのボードでは、コンピュータの電源を切った後でも少量の電気でスタンバイ状態を保持しているので、点灯したままになっています。

Q3: EasyTune 4で使えない機能があります。

A: 使用可能なEasyTune 4の機能リストはマザーボードのチップセットに依存します。チップセットがEasyTune 4のいくつかの機能をサポートしていない場合はそれらの機能は自動的にロックされ、使用することができません。

Q4: RAID機能をサポートするボード上で、ブートHDDをIDE3またはIDE4に接続した後、Win 2000とXPの環境にRAIDとATAのドライバのインストールができません。

A: ドライバをインストールする前に、まず、CD-ROMの中のいくつかのファイルをフロッピーディスクにコピーする必要があります。もしくは違うインストールのステップを踏んでみる必要があります。従って、弊社のホームページのRAIDマニュアルのインストールステップをご参照ください。

(http://tw.giga-byte.com/support/user_pdf/raid_manual.pdfをダウンロード)

Q5: CMOSをクリアするには?

A: ボードがクリアCMOSジャンパを装備している場合はマニュアルのクリアCMOSステップの部分をご参照ください。装備していない場合は、オンボードのバッテリを漏電させることでCMOSをクリアすることができます。下記のステップをご参照ください。

ステップ:

1. コンピュータの電源を切ります。
2. マザーボードから電源コードを外します。
3. バッテリを丁寧に取り外し、10分ほどよけておきます(または金属製の物体でバッテリフォルダーの陽極と陰極をつなぎ1分間ショートさせることも可能です)。
4. バッテリをバッテリフォルダーに再度差し込みます。
5. マザーボードに電源コードを再度接続し、コンピュータの電源を入れます。
6. Delキーを押し、BIOSのロードフェールセーフ既定値に入ります。
7. 変更を保存し、システムを再起動します。

Q6: BIOSのアップデートを行った後にシステムが不安定になったように思われますか?

A: BIOSを表示させた後、フェールセーフ既定値(もしくはロードBIOS既定値)をロードしてください。それでも、システムが不安定な場合はCMOSをクリアすることで問題を解決することができます。

Q7: なぜ最大音量でスピーカーをオンにしても弱い音しか聞こえてこないのでしょうか?

A: お使いのスピーカーが内蔵のアンプを使用しているかどうかを確認してください。もし使用していない場合には、電源とアンプを装備した別のスピーカーに取り替えた後に再度お試しください。

Q8: 外付けのVGAカードを増設したいので、どうやってオンボードのVGAカードを無効に設定したらしいのですか?

A: Gigabyteのマザーボードは自動的に外付けのVGAカードを検出しますので、オンボードVGAの設定を手動で無効にする必要はありません。



Q9: なぜIDE 2が使用できないのですか?

A: ユーザーマニュアルをご参照していただくか、前面USBパネルのUSB Over Currentピンに今接続されているケーブルがマザーボードパッケージによって供給されていないものかを確認してください。もしご自身でお持ちのケーブルを使用している場合は、それをこのピンから外し、自分のケーブルは接続しないでください。

Q10: システムを起動した後、コンピュータからときどき違う連続性のビープ音が聞こえてくるのですが、この音は何を意味しているのでしょうか?

A: 下のビープ音のコードを参照してコンピュータに発生している問題を確認してください。ただし、これらは参考に過ぎません。ケースにより状況は異なります。

→AMI BIOSビープコード

* システムの起動に成功した場合はコンピュータは1回の短いビープ音を鳴らします。	→ AWARD BIOSビープコード
* コード8以外は致命的な問題があることを通知します。	1短: システム起動成功 2短: CMOS設定エラー
1ビープ 更新失敗 2ビープ パリティエラー 3ビープ 基本64Kメモリーフェイル 4ビープ タイマが非動作 5ビープ プロセッサエラー 6ビープ 8042 - ゲートA20フェイル 7ビープ プロセッサの例外阻止エラー 8ビープ メモリの読み込み/書き込み表示エラー 9ビープ ROM照合エラー 10ビープ CMOSシャットダウン記録読み込み/書き込みエラー 11ビープ キャッシュメモリ不具合	1長1短: DRAMまたはマザーボードエラー 1長2短: モニターまたはディスプレイカードエラー 1長3短: キーボードエラー 1長9短: BIOS ROMエラー 連続のビープ(長): DRAMエラー 連続のビープ(短): 電源エラー

Q11: RAID機能を持つマザーボードの場合、RAIDまたはATAモードで、IDE3、4から起動するためにはBIOSをどのように設定すればいいのですか?

A: 次のようにBIOSを設定してください。

1. アドバンストBIOS機能-->(SATA)/RAID/SCSI起動オーダー: 「SATA」
2. アドバンストBIOS機能-->最初の起動デバイス: 「SCSI」
3. 統合周辺装置-->オンボードH/W ATA/RAID: 「enable」

RAIDコントロール機能で「RAID」をRAIDモードにまたは「ATA」を標準のATAモードに設定する必要があるかどうかは、RAIDモードによって異なります。

Q12: IDE/SCSI/ RAIDカードから起動するためにはBIOSをどのように設定すればいいのですか?

A: 次のようにBIOSを設定してください。

1. アドバンストBIOS機能-->(SATA)/RAID/SCSI起動オーダー: 「SCSI」
2. アドバンストBIOS機能-->最初の起動デバイス: 「SCSI」

RAID/ SCSI BIOS を設定する必要があるかどうかはモード (RAID または ATA) によって異なります。

日本語

日本語

日本語

日本語

日本語

日本語

日本語



連絡先

● Taiwan (Headquarters)

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.
Address: No.6, Bau Chiang Road, Hsin-Tien, Taipei Hsien,
Taiwan.
TEL: +886 (2) 8912-4888
FAX: +886 (2) 8912-4003
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address (English): <http://www.gigabyte.com.tw>
WEB address (Chinese): <http://chinese.giga-byte.com>

● U.S.A.

G.B.T. INC.
Address: 17358 Railroad St, City of Industry, CA 91748.
TEL: +1 (626) 854-9338
FAX: +1 (626) 854-9339
Tech. Support :
<http://www.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.giga-byte.com>

● Germany

G.B.T. TECHNOLOGY TRADING GMBH
Address: Friedrich-Ebert-Damm 112 22047 Hamburg
Deutschland
TEL: +49-40-2533040 (Sales)
+49-1803-428468 (Tech.)
FAX: +49-40-25492343 (Sales)
+49-1803-428329 (Tech.)
Tech. Support :
<http://de.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.gigabyte.de>

● Japan

NIPPON GIGA-BYTE CORPORATION
WEB address : <http://www.gigabyte.co.jp>

● Singapore

GIGA-BYTE SINGAPORE PTE. LTD.
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>

● U.K.

G.B.T. TECH. CO., LTD.
Address: GUnit 13 Avant Business Centre 3 Third Avenue,
Denbigh West Bletchley Milton Keynes, MK1 1DR, UK, England
TEL: +44-1908-362700
FAX: +44-1908-362709
Tech. Support :
<http://uk.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://uk.giga-byte.com>

● The Netherlands

GIGA-BYTE TECHNOLOGY B.V.
TEL: +31 40 290 2088
NL Tech. Support: 0900-GIGABYTE (0900-44422983)
BE Tech. Support: 0900-84034
FAX: +31 40 290 2089
Tech. Support :
<http://nz.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.giga-byte.nl>

日本
大馬士革
吉加比特



● China

NINGBO G.B.T. TECH. TRADING CO., LTD.

Tech. Support :

<http://cn.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>

Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :

<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>

WEB address : <http://www.gigabyte.com.cn>

Shanghai

TEL: +86-021-63410999

FAX: +86-021-63410100

Beijing

TEL: +86-010-82886651

FAX: +86-010-82888013

Wuhan

TEL: +86-027-87851061

FAX: +86-027-87851330

GuangZhou

TEL: +86-020-87586074

FAX: +86-020-85517843

Chengdu

TEL: +86-028-85236930

FAX: +86-028-85256822

Xian

TEL: +86-029-85531943

FAX: +86-029-85539821

Shenyang

TEL: +86-024-23960918

FAX: +86-024-23960918-809

● Australia

GIGABYTE TECHNOLOGY PTY. LTD.

Address: 3/6 Garden Road, Clayton, VIC 3168 Australia

TEL: +61 3 85616288

FAX: +61 3 85616222

Tech. Support :

<http://www.giga-byte.com.au/TechSupport/ServiceCenter.htm>

Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :

<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>

WEB address : <http://www.giga-byte.com.au>

● France

GIGABYTE TECHNOLOGY FRANCES S.A.R.L.

Tech. Support :

<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>

Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :

<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>

WEB address : <http://www.gigabyte.fr>

● Russia

Moscow Representative Office Of Giga-Byte Technology Co., Ltd.

Tech. Support :

<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>

Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :

<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>

WEB address : <http://www.gigabyte.ru>

● Poland

Representative Office Of Giga-Byte Technology Co., Ltd.

POLAND

Tech. Support :

<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>

Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :

<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>

WEB address : <http://www.gigabyte.pl>
